

Fujitsu Notebook LIFEBOOK

LIFEBOOK U7311/F

製品ガイド

(機種別編)

本書をお読みになる前に

1 各部名称

2 取り扱い

3 周辺機器

4 お手入れ

5 仕様

目次

本書をお読みにする前に	5
安全にお使いいただくために	5
本書の表記	5
Windowsの操作	7
BIOSやドライバーのアップデートについて	8
ハードディスクの暗号化について	9
商標および著作権について	9
第1章 各部名称	
1.1 パソコン本体前面	11
1.2 パソコン本体右側面	13
1.3 パソコン本体左側面	14
1.4 パソコン本体下面	15
1.5 キーボード	16
1.6 状態表示LED	18
1.7 ポートリプリケータ	19
第2章 取り扱い	
2.1 フラットポイント	21
2.1.1 注意事項	21
2.1.2 基本操作	21
2.1.3 フラットポイントの設定を変更する	22
2.1.4 フラットポイントの有効/無効を切り替える	24
2.2 マウス	25
2.2.1 注意事項	25
2.2.2 マウスの基本設定を変更する	25
2.3 タッチパネル	26
2.3.1 注意事項	26
2.3.2 基本操作	27
2.3.3 文字を入力する	28
2.4 ディスプレイ	29
2.4.1 注意事項	29
2.4.2 明るさを調整する	29
2.4.3 解像度を変更する	30
2.4.4 拡大表示設定を変更する	31
2.5 マルチディスプレイ機能	32
2.5.1 マルチディスプレイ機能とは	32
2.5.2 注意事項	32
2.5.3 マルチディスプレイ機能を設定する	35

2.6 サウンド	36
2.6.1 全体の再生音量を調節する	36
2.6.2 アプリごとの再生音量を調節する	37
2.6.3 機器や項目ごとの音量を調節する	37
2.6.4 オーディオ端子の機能を切り替える	38
2.6.5 既定のオーディオ機器を選択する	39
2.6.6 スピーカーの音質を調節する	40
2.7 省電力	42
2.7.1 省電力状態	42
2.7.2 電源を切る	44
2.7.3 本パソコンの節電機能	45
2.7.4 省電力設定	45
2.7.5 Standby Energy Saver	47
2.7.6 ピークシフト	50
2.7.7 ECO Sleep	51
2.8 バッテリー	52
2.8.1 注意事項	52
2.8.2 バッテリーを充電する	55
2.8.3 バッテリーの残量を確認する	55
2.8.4 バッテリーを交換する	56
2.8.5 バッテリーの充電モードを変更する	58
2.8.6 バッテリーの状態を確認する	59
2.9 通信	60
2.9.1 有線LAN	60
2.9.2 無線LAN	62
2.9.3 無線WAN	62
2.9.4 Bluetoothワイヤレステクノロジー	62
2.9.5 無線通信機能の電波を発信する／停止する	63
2.10 ダイレクト・メモリスロット	65
2.10.1 注意事項	65
2.10.2 使用できるメモリーカード	66
2.10.3 メモリーカードをセットする	66
2.10.4 メモリーカードを取り出す	67
2.11 暗号化機能付フラッシュメモリディスク	68
2.12 セキュリティチップ（TPM）	69
2.13 電源オフUSB充電機能	70
2.13.1 注意事項	70
2.13.2 電源オフUSB充電機能の設定を変更する	70
2.14 USB Type-C 充電・給電ユーティリティ	71
2.14.1 注意事項	71
2.14.2 USB Type-C 充電・給電ユーティリティの設定を変更する	71
2.15 Windows Hello	73
2.15.1 Windows Helloを使って顔認識でサインインする	73
2.15.2 Windows Helloを使って指紋認証でサインインする	77

第3章 周辺機器

3.1	周辺機器を取り付ける前に	84
3.1.1	注意事項	84
3.2	メモリ	85
3.2.1	注意事項	85
3.2.2	取り付けられるメモリ	85
3.2.3	メモリを取り付ける	86
3.2.4	メモリを取り外す	87
3.3	ポートリプリケーター	88
3.3.1	注意事項	88
3.3.2	ポートリプリケーターを取り付ける	89
3.3.3	ポートリプリケーターを取り外す	89
3.4	nanoSIMカード	90
3.4.1	注意事項	90
3.4.2	nanoSIMカードをセットする	91
3.4.3	nanoSIMカードを取り出す	92
3.5	コネクタの接続／取り外し	93
3.5.1	注意事項	93
3.5.2	ディスプレイコネクタ	94
3.5.3	USBコネクタ	95
3.5.4	オーディオ端子	96
3.5.5	LANコネクタ	96

第4章 お手入れ

4.1	日常のお手入れ	99
4.1.1	パソコン本体、キーボード、マウス、ポートリプリケーターの表面の汚れ ...	99
4.1.2	指紋センサー／手のひら静脈センサー	99
4.1.3	液晶ディスプレイ	100

第5章 仕様

5.1	本体仕様	102
5.1.1	LIFEBOOK U7311/F	103
5.2	CPU	116
5.3	ディスプレイ	117
5.3.1	シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度	117
5.3.2	クローン表示の解像度	119
5.4	無線LAN	120

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

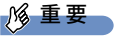

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が『取扱説明書』に記載されています。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

本書の表記

本書の内容は2021年9月現在のものです。お問い合わせ先やURLなどが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】 + 【F3】キー、【Shift】 + 【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：コントロールパネルの「システムとセキュリティ」をクリックし、「システム」をクリックし、「デバイス マネージャー」をクリックする操作

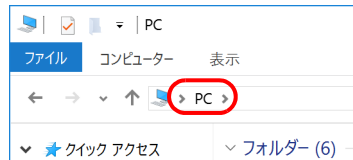
↓

「システムとセキュリティ」→「システム」の「デバイス マネージャー」の順にクリックします。

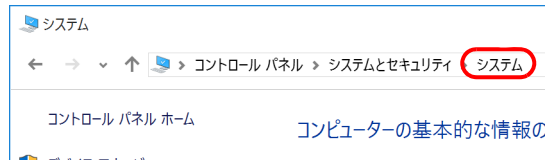
■ ウィンドウ名の表記

本文中のウィンドウ名は、アドレスバーの最後に表示されている名称を表記しています。

例：



「PC」ウィンドウ



「システム」ウィンドウ

■ 画面例およびイラスト

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略したり形状を簡略化したりしていることがあります。

■ 周辺機器の使用

本文中の操作手順において、DVDなどを使用することがあります。

操作に必要なドライブなどが搭載されていないモデルをお使いの場合は、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。

使用できる周辺機器については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/)をご覧ください。

また、使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 本文に記載している仕様とお使いの機種との相違

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

なお、本文内において書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■ 「ポートリプリケータ」の記載について

本文中に記載されている「ポートリプリケータ」は、パソコン本体下面のポートリプリケータ接続コネクタに取り付けるタイプです。

本パソコンは、別売のポートリプリケータ（USB Type-C接続）に対応しています。

ポートリプリケータ（USB Type-C接続）については、ポートリプリケータに添付のマニュアルをご覧ください。

■ 製品名の表記


本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記	
Windows 10 Pro 64ビット版	Windows 10	Windows
Bluetooth®	Bluetooth	
FUJITSU Security Solution AuthConductor™ Client Basic	AuthConductor Client Basic	

Windowsの操作

■ アクションセンター

アプリからの通知を表示する他、クリックすることで画面の明るさ設定や通信機能の状態などを設定できるアイコンが表示されます。

- 1 通知領域にあるをクリックします。
画面右側に「アクションセンター」が表示されます。

■ 「コントロールパネル」 ウィンドウ

次の手順で「コントロールパネル」ウィンドウを表示させてください。

- 1 「スタート」ボタン→「Windows システム ツール」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

■ Windowsのヒント

本書で説明されていないWindowsの機能については、次の操作で表示されるWindowsのヒントをご覧ください。


Windowsのヒントのご利用は、ネットワークに接続する必要があります。

- 1 「スタート」ボタン→「ヒント」をクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「ヒントを参照する」をクリックします。

■ ユーザーアカウント制御


本書で説明しているWindowsの操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前にWindowsが表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

■ 通知領域のアイコン


通知領域にすべてのアイコンが表示されていない場合があります。
表示されていないアイコンを一時的に表示するには、通知領域のをクリックします。

■ Windows モビリティセンター

本パソコンのいくつかの機能は、「Windows モビリティセンター」で操作できます。
「Windows モビリティセンター」は次の操作で起動します。

- 1 通知領域の「電源」アイコン（) を右クリックし、「Windows モビリティセンター」をクリックします。

POINT

- ▶ 次の操作でも「Windows モビリティセンター」を表示できます。
 - ・【】 + 【X】 キーを押す
表示されたメニューから「モビリティセンター」をクリックします。
 - ・「スタート」ボタンを右クリックする
表示されたメニューから「モビリティセンター」をクリックします。

BIOS やドライバーのアップデートについて

本パソコンには、さまざまなアプリや周辺機器の接続／制御に必要な BIOS、ドライバーなどが搭載されています。

これらのアプリ、BIOS、ドライバーに対して、アップデートプログラムが提供されることがあります。

アップデートプログラムには、次のような内容が含まれています。

- 機能の向上、追加
- 操作性の向上
- 品質改善

本パソコンをより快適にお使いいただくために、常に最新版の BIOS やドライバーを適用してください。

アップデート方法については、弊社アップデートサイト（https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html）をご覧ください。

POINT

- ▶ 本パソコンには、インターネットを経由して、ドライバーやアプリの更新プログラムの有無を定期的にチェックして通知する「アップデートナビ」が搭載されています。
『製品ガイド（共通編）』の「1章 アプリ」—「1.1.3 サポート関連のアプリ」をご覧ください。
アップデートナビを有効にしてお使いください。

ハードディスクの暗号化について

次の場合は、「デバイスの暗号化」機能により、本パソコン搭載のフラッシュメモリディスクが自動的に暗号化されます。

- Microsoft アカウントでパソコンにサインインしている場合
- Azure Active Directory アカウントでパソコンにサインインしている場合

暗号化されたハードディスクを修理した場合や修理によりハードウェア情報が更新された場合、パソコン起動時に「回復キー」の入力を求められます。

「回復キー」を入力しないとパソコンを起動することができないため、次の手順で事前に「回復キー」を確認し、なくさないように保管してください

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.7）を表示します。
- 2 「システムとセキュリティ」→「BitLocker ドライブ暗号化」の順にクリックします。
- 3 「BitLocker ドライブ暗号化」画面の「回復キーのバックアップ」をクリックします。
- 4 表示されたメニューから「ファイルに保存する」または「回復キーを印刷する」を選択し保管します。

POINT

- ▶ 事前に「回復キー」を保管していない場合は、マイクロソフト社のホームページで確認することができます。次のURLにサインインしてください。
 - ・ Microsoft アカウントを利用している場合
<http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=237614>
 - ・ Azure Active Directory アカウントを利用している場合
<https://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=857635>

商標および著作権について

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core、Intel SpeedStep、Intel vPro、Thunderbolt、Thunderbolt ロゴは、アメリカ合衆国および/またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。富士通株式会社は使用許諾の下でこれらのマークおよびロゴを使用しています。

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface という語、HDMI のトレードドレスおよび HDMI のロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。



MaxxAudio は、Waves Audio Ltd. の米国およびその他の国における登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

Copyright Fujitsu Limited 2021

1

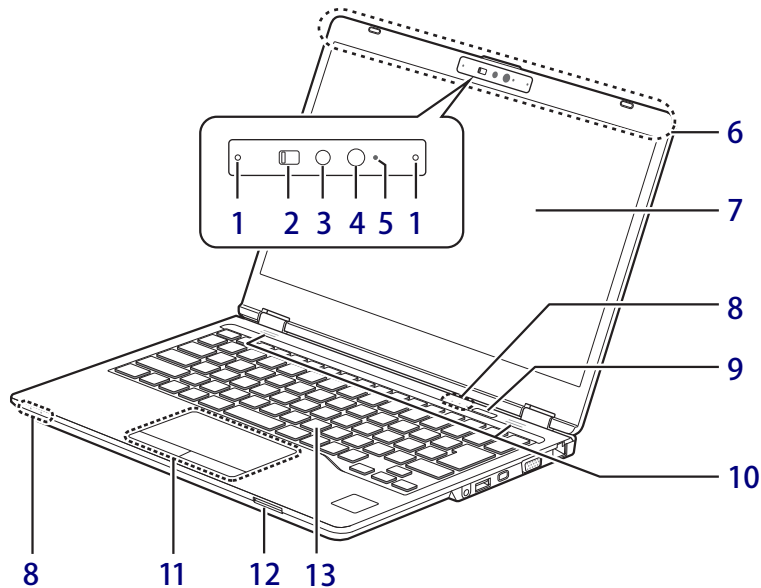
第1章

各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1.1	パソコン本体前面	11
1.2	パソコン本体右側面	13
1.3	パソコン本体左側面	14
1.4	パソコン本体下面	15
1.5	キーボード	16
1.6	状態表示LED	18
1.7	ポートリプリケータ	19

1.1 パソコン本体前面



1 内蔵マイク

(Webカメラ搭載機種)
音声通話や録音ができます。

2 プライバシーカメラシャッター

カメラを使用しないときは、右に動かしてシャッターを閉めます。

3 顔認証対応Webカメラ

(Webカメラ搭載機種)
パソコンやWindowsの起動時などに顔認証によるセキュリティを設定できます。(→P.73)
詳しくは、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

4 顔認証用赤外線発光部

(Webカメラ搭載機種)
顔認証利用時に赤外線を発光します。

5 Webカメラ状態表示LED

(Webカメラ搭載機種)

6 ワイヤレスアンテナ

(無線LAN、Bluetoothワイヤレステクノロジー搭載機種)

7 液晶ディスプレイ

(→P.29)
タッチパネル搭載機種の場合は、タッチ操作に対応します。(→P.26)

8 状態表示LED

(→P.18)

9 電源ボタン

パソコン本体の電源を入れたり、省電力状態(→P.42)にしたりします。

10 スピーカー

(→P.36)

11 フラットポイント

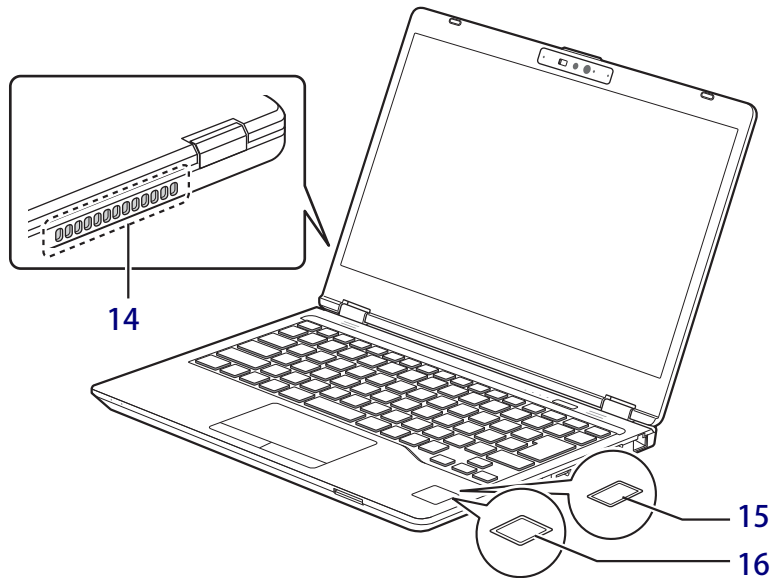
(→P.21)

12 ダイレクト・メモリースロット

(→P.65)

13 キーボード

(→P.16)



14 排気孔（背面側）

パソコン本体内部の熱を外部に逃がします。

重要

- ▶ 排気孔周辺は熱くなるので、パソコン使用中は触らないでください。

15 指紋センサー

（指紋センサー搭載機種）

パソコンやWindowsの起動時などに指紋認証によるセキュリティを設定できます。（→P.73）

詳しくは、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。

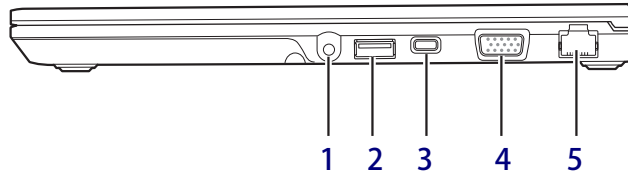
16 手のひら静脈センサー

（手のひら静脈センサー搭載機種）

パソコンやWindowsの起動時などに静脈認証によるセキュリティを設定できます。

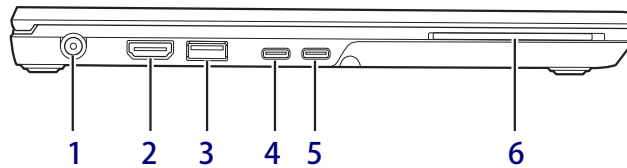
詳しくは、AuthConductor Client Basicのマニュアルをご覧ください。お手入れ方法については、「4.1.2 指紋センサー／手のひら静脈センサー」（→P.99）をご覧ください。

1.2 パソコン本体右側面



- 1  マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子 (→P.38)
- 2  USB 3.2 (Gen1) Type-A コネクタ
- 3  盗難防止用ロック取り付け穴
盗難防止用ケーブルを取り付けます。
弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防止用品については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/) をご覧ください。
- 4  アナログディスプレイコネクタ (→P.94)
- 5  LAN コネクタ (→P.96)

1.3 パソコン本体左側面



1 DC-IN コネクタ

添付のACアダプタを接続します。

2 HDMI HDMI出力端子

(→P.94)

3 USB 3.2 (Gen1) Type-A コネクタ

(電源オフUSB充電機能対応)

(→P.95)

電源オフUSB充電機能については、「2.13 電源オフUSB充電機能」(→P.70)をご覧ください。

4 USB Type-C コネクタ (奥)

次のいずれかが搭載されています。(→P.95)

- Thunderbolt™ 4
- USB 3.2 (Gen2)

POINT

- ▶ USB Power Deliveryに対応しています(→P.71)。仕様については「5.1 本体仕様」(→P.102)をご覧ください。
- ▶ 別売のポートリプリケータ (USB Type-C接続)に対応しています。ポートリプリケータ (USB Type-C接続)をお使いになる前には、必ず最新のドライバーを適用してください。最新のドライバーは、富士通製品情報ページ内にある「ドライバダウンロード」(https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html)よりダウンロードしてください。

5 USB Type-C コネクタ (手前)

次のいずれかが搭載されています。(→P.95)

- Thunderbolt™ 4
- USB 3.2 (Gen2)

POINT

- ▶ USB Power Deliveryに対応しています(→P.71)。仕様については「5.1 本体仕様」(→P.102)をご覧ください。
- ▶ 別売のポートリプリケータ (USB Type-C接続)に対応しています。ポートリプリケータ (USB Type-C接続)をお使いになる前には、必ず最新のドライバーを適用してください。最新のドライバーは、富士通製品情報ページ内にある「ドライバダウンロード」(https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html)よりダウンロードしてください。

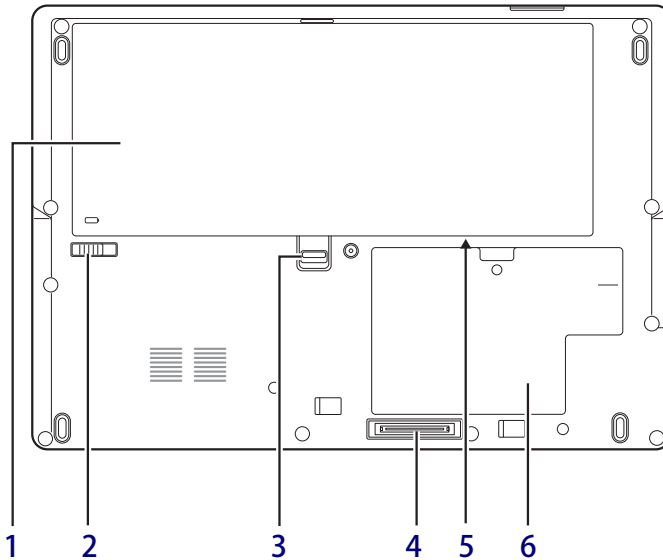
6 スマートカードスロット

(スマートカードスロット搭載機種)

Windowsの起動や、ソフトウェアのサインイン時のセキュリティ認証用に使えるスマートカードをセットします。

スマートカードはICチップのある方を上側にして挿入してください。

1.4 パソコン本体下面



1 内蔵バッテリーパック

(→P.52)

2 内蔵バッテリーパックロック2

内蔵バッテリーパックを取り外すときにスライドさせます。(→P.56)

3 内蔵バッテリーパックロック1

内蔵バッテリーパックを取り外すときに使用します。(→P.56)

4 ポートリプリケータ接続コネクタ

(→P.88)

Thunderbolt™ 4搭載機種のみ本コネクタが搭載されます。

5 nanoSIMカードスロット

(無線WAN搭載機種)

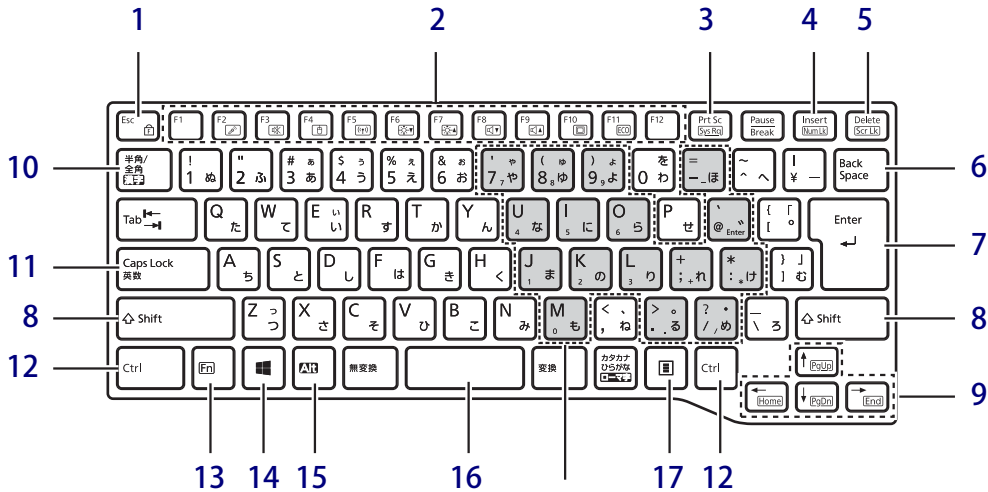
パソコン本体内部にスロットがあります。nanoSIMカードの取り付け/取り外しは、バッテリーパックを取り外します。

(→P.90)

6 メモリスロットカバー

(→P.85)

1.5 キーボード



[グレー部分]
テンキーになるキー (→P.17)

1 【Esc/】キー

- このキーだけを押すと、現在の作業を取り消します。

- F Lock機能 ()

【Fn】キー (→P.17) を押しながらこのキーを押すごとに、F Lock機能の有効/無効を切り替えます。

F Lock機能を有効にすると、【Fn】キーを押さずにファンクションキーを押すだけで、ホットキー(→P.16)の機能を使用できます。

重要

▶ F Lock機能の有効/無効は、「Function Key Lock Utility」でも切り替えることができます。

POINT

▶ F Lock機能は、Windowsが起動している場合のみ使用できます。
Windows起動前およびBIOSセットアップでは、F Lock機能は使用できません。

2 ファンクションキー/ホットキー

- ファンクションキー (【F1】～【F12】)

アプリごとにいろいろな機能が割り当てられています。











- ホットキー (枠で囲われている刻印)

【Fn】キー (→P.17) を押しながら使用したい機能のキーを押します。

各キーの機能は次のとおりです。

POINT

▶ F Lock機能 (→P.16) が有効の場合は、【Fn】キーを押さずにホットキーだけを押します。

	マイクのオン/オフを切り替える
	スピーカーやヘッドホンのオン/オフを切り替える (→P.36)
	フラットポイントの有効と無効を切り替える (→P.24)
	無線通信の電波の発信/停止を切り替える
	液晶ディスプレイを暗くする (→P.29)
	液晶ディスプレイを明るくする (→P.29)
	音量を小さくする (→P.36)
	音量を大きくする (→P.36)
	外部ディスプレイを接続した場合に、液晶ディスプレイと外部ディスプレイで表示先を切り替える
	バッテリー設定の画面を表示する

3 【Prt Sc】キー

画面に表示されている内容を画像としてコピーできます。

4 【Insert】キー／【Num Lk】キー

【Insert】キー	入力する文字の挿入／上書きを切り替える
【Num Lk】キー	テンキーモード（→P.17）のオン／オフを切り替える 【Fn】キーと組み合わせて使う

5 【Delete】キー／【Scr Lk】キー

【Delete】キー	カーソルの右側にある1文字を削除する
【Scr Lk】キー	【Fn】キーと組み合わせて使う

6 【Back Space】キー

7 【Enter】キー

8 【Shift】キー

9 カーソルキー

矢印の方向にカーソルを移動します。
また、【Fn】キーを押しながらカーソルキーを押すと、次の機能を使用できます。

【←/Home】	カーソルを行の最初に移動する
【Ctrl】＋ 【←/Home】	文章の最初に移動する
【↑/Pg Up】	前の画面に切り替える
【↓/Pg Dn】	次の画面に切り替える

■ テンキーモード

文字キーの一部をテンキー（数字の入力を容易にするキー配列）として使えるように切り替えた状態のことを「テンキーモード」といいます。【Num Lk】キーを押すと、テンキーモードになります。テンキーモードのときは、状態表示LEDのNum Lockランプが点灯します。テンキーモードで入力できる文字は、各キーの下段に小さい文字で刻印されています。

POINT

- ▶ 別売のテンキーボードをパソコン本体に接続して【Num Lk】キーを押すと、テンキーボードのテンキーが有効になり、パソコン本体のテンキーは無効になります。
- ▶ BIOSセットアップの「キーボード／マウス設定」で、「起動時のNumlock設定」を「オン（Fnキー）」に設定すると、【Fn】キーを押しながらパソコン本体のテンキーが使用できるようになります。

10 【半角／全角】キー

日本語入力のオン／オフを切り替えます。

11 【Caps Lock】キー

【Shift】キーを押しながらこのキーを押して、アルファベットの大文字／小文字を切り替えます。

12 【Ctrl】キー

13 【Fn】キー

【Fn】キーを押しながら、ファンクションキー（→P.16）のうち枠で囲われている刻印のあるキー（ホットキー）を押すと、それぞれのキーに割り当てられた機能を使用できます。

POINT

- ▶ F Lock機能（→P.16）が有効の場合、【Fn】キーを押さずにファンクションキーを押すだけで、ホットキーの機能を使用できます。

14 【Windows】（Windows）キー

「スタート」メニューを表示します。

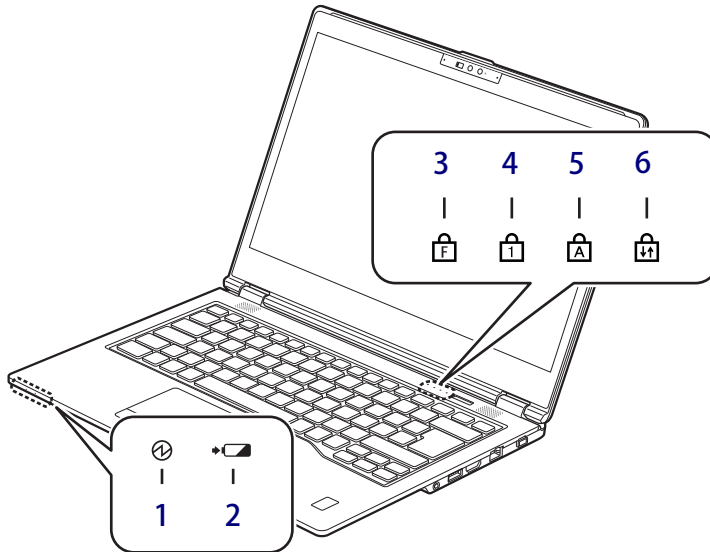
15 【Alt】キー

16 【Space】キー

17 【Application】（アプリケーション）キー

選択した項目のショートカットメニューを表示します。
マウスなどの右クリックと同じ役割をします。

1.6 状態表示LED



1 ① 電源ランプ

本パソコンの状態を表示します。

LEDランプ	本パソコンの状態
白色点灯	動作状態
白色点滅	スリープ状態 ^注
消灯	電源オフまたは休止状態

注：スリープ（→P.42）中は、一部の機能は動作します。
また、動作状況によりLEDランプが点滅ではなく点灯となる場合があります。

2 →🔋 バッテリステータスランプ （→P.55） / （→P.55）

3 📄 F Lockランプ

F Lock機能（→P.16）が有効のときに点灯します。

点灯時は、【Fn】キーを押さずにファンクションキーを押すだけで、ホットキー（→P.16）の機能を使用できます。

4 📄 Num Lockランプ

テンキーによる数字の入力がオンのときに点灯します。

5 📄 Caps Lockランプ

アルファベットの大文字入力モードのときに点灯します。

6 📄 Scroll Lockランプ

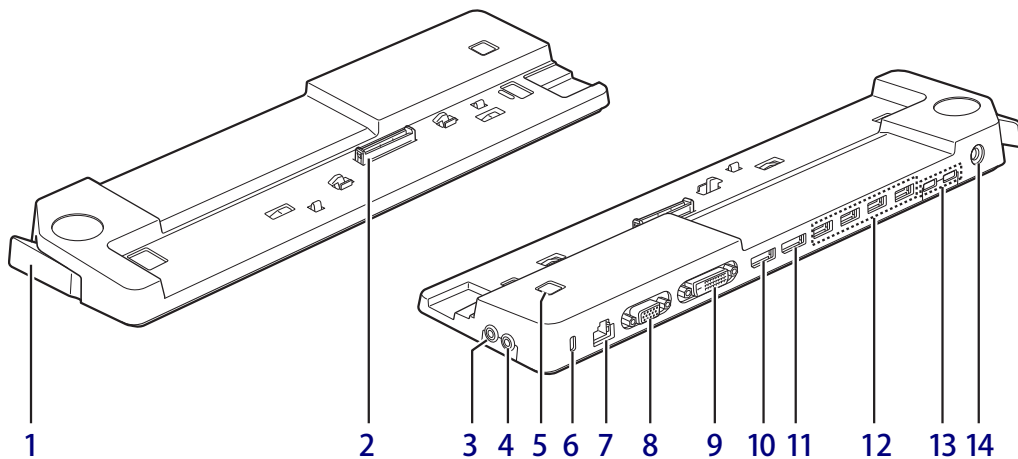
【Fn】 + 【Scr Lk】キーを押して、スクロールロックの設定と解除を切り替えます。点灯中の動作は、ソフトウェアに依存します。

1.7 ポートリプリケータ

対象 ポートリプリケータ使用時

重要

- ▶ ポートリプリケータをお使いになる前には、必ず最新のドライバーを適用してください。最新のドライバーは、富士通製品情報ページ内にある「ドライバダウンロード」(https://www.fmworld.net/biz/fmw/index_down.html) よりダウンロードしてください。



- 1** **ポートリプリケータ取り外しレバー**
ポートリプリケータをパソコン本体から取り外す場合にレバーを起こします。(→P.89)
- 2** **本体接続コネクタ**
パソコンにあるポートリプリケータ接続コネクタを接続します。(→P.88)
- 3** **ヘッドホン・ラインアウト兼用端子**
(→P.38)
- 4** **マイク・ラインイン兼用端子**
(→P.38)
- 5** **電源ボタン**
パソコン本体の電源を入れたり、省電力状態(→P.42) にしたりします。
- 6** **盗難防止用ロック取り付け穴**
盗難防止用ケーブルを取り付けます。弊社がお勧めするワイヤーロック／盗難防止用品については、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/) をご覧ください。
- 7** **LANコネクタ**
(→P.96)
- 8** **アナログディスプレイコネクタ**
(→P.94)
- 9** **DVI-Dコネクタ**
(→P.94)
- 10** **DisplayPort 1コネクタ**
(→P.94)
- 11** **DisplayPort 2コネクタ**
(→P.94)
- 12** **USB 3.2 (Gen1) Type-Aコネクタ**
(→P.95)
- 13** **USB 3.2 (Gen1) Type-Cコネクタ**
(→P.95)
- 14** **DC-INコネクタ**
ポートリプリケータ専用のACアダプタを接続します。

2

第2章

取り扱い

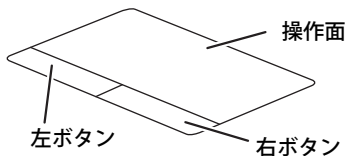
本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

2.1	フラットポイント	21
2.2	マウス	25
2.3	タッチパネル	26
2.4	ディスプレイ	29
2.5	マルチディスプレイ機能	32
2.6	サウンド	36
2.7	省電力	42
2.8	バッテリー	52
2.9	通信	60
2.10	ダイレクト・メモリスロット	65
2.11	暗号化機能付フラッシュメモリディスク	68
2.12	セキュリティチップ（TPM）	69
2.13	電源オフUSB充電機能	70
2.14	USB Type-C 充電・給電ユーティリティ	71
2.15	Windows Hello	73

2.1 フラットポイント

フラットポイントは、指先の操作でマウスポインターを動かすことのできるポインティングデバイスです。

ここでは、フラットポイントの機能について説明しています。



2.1.1 注意事項

- フラットポイントは操作面表面の結露、湿気などにより誤動作することがあります。また、濡れた手や汗をかいた手でお使いになった場合、あるいは操作面の表面が汚れている場合は、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。このような場合は、電源を切ってから、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れを拭き取ってください。
- フラットポイントは、その動作原理上、指先の乾燥度などにより、動作に若干の個人差が発生する場合があります。

2.1.2 基本操作

左ボタン／右ボタンを押すと、マウスの左クリック／右クリックの動作をします。
またフラットポイントの操作面を軽く、素早くたたく（タップする）とマウスの左クリックの動作をし、2本指でたたく（タップする）とマウスの右クリックの動作をします。
操作面を指先でなぞると、画面上のマウスポインターが移動します。マウスポインターが操作面の端まで移動した場合は、一度操作面から指を離し、適当な場所に降ろしてからもう一度なぞってください。

POINT


- ▶ 指の先が操作面に接触するように操作してください。指の腹を押さえつけるように操作すると、マウスポインターが正常に動作しないことがあります。

左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などの設定を変更をする場合は、「2.2.2 マウスの基本設定を変更する」（→P.25）をご覧ください。

2.1.3 フラットポイントの設定を変更する

フラットポイントの設定は、「Windowsの機能」と「Synaptics TouchPad」から変更することができます。用途により、設定を行ってください。

■ Windowsの機能で変更する

- 1 「スタート」ボタン→（設定）→「デバイス」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「タッチパッド」をクリックします。



- 3 画面右側の各項目で、使いたい機能を設定します。
必要に応じて設定を変更してください。

タッチパッド	フラットポイントのオンとオフを切り替えます。
	マウス接続時のフラットポイントのオン/オフを切り替えます。
	カーソルの速度を変更します。
タップ	キーボード操作時にフラットポイントに触れ誤入力起きるときは、フラットポイントの感度を下げます。
	1本指での操作、2本指での操作を設定します。
スクロールとズーム	2本指でのスクロール、スクロールの方向、ズーム操作を設定します。
3本指ジェスチャの設定	3本指でのスワイプ時の設定、タップ時の設定を行います。
4本指ジェスチャの設定	4本指でのスワイプ時の設定、タップ時の設定を行います。
設定のリセット	タッチパッドの設定、ジェスチャの設定を初期設定に戻します。

POINT

- ▶ 本機能は、使用するアプリやアプリの状態によって、動作が異なったり、お使いになれなかったりすることがあります。

■ Synaptics TouchPadで変更する


1 「スタート」ボタン→「SynTP Properties」の順にクリックします。

「Synapticsポインティング デバイスのプロパティ」が表示されます。

2 「設定」をクリックします。

「Synapticsコントロールパネル」が表示されます。必要に応じて設定を変更してください。

POINT

▶ 各項目の右側に表示される （ヘルプ）をクリックすると、各機能の説明が表示されます。

●「スクロール」タブ
・1本指エッジスクロール

●「拡張」タブ
・スマートチェック
・感度
・タップゾーン

重要

- ▶ マウスポインターが勝手に動いてしまう場合
手のひらや袖口がフラットポイントに触れると、マウスポインターが動いてしまうことがあります。次の項目でフラットポイントの感度を変更すると改善できる場合があります。
- ・「拡張」タブの「スマートチェック」：手のひらなどの接触による誤動作を軽減します。
 - 「最大」側に動かすとタッチ感度が下がり、「最小」側に動かすとタッチ感度が上がります。
 - 誤反応を防止するには、「最大」側に動かして調整してください。
 - ・「拡張」タブの「感度」：フラットポイントの感度を調整できます。
 - 「軽く」側に動かすとタッチ感度が上がり、「重く」側に動かすとタッチ感度が下がります。
 - 「重く」に調整すると誤反応を防止しやすくなりますが、マウスポインターが動きにくくなる場合があります。その場合、フラットポイントに指を強く押しつけるようにすると、マウスポインターを操作できます。
- 詳しくは、各項目のヘルプをご覧ください。

3 「OK」をクリックします。

「Synapticsポインティングデバイスのプロパティ」が表示されます。

4 「OK」をクリックして、ウィンドウを閉じます。

2.1.4 フラットポイントの有効／無効を切り替える

重要

- ▶ フラットポイントを無効にする場合は、必ずUSBマウスを接続してください。

■ キーボードで切り替える


【Fn】 + 【F4】 キーを押すたびに、次のようにフラットポイントの設定が切り替わります。

無効 → 有効


POINT

- ▶ 【Fn】 + 【F4】 キーを押すたびに、画面右下部に状況を示すメッセージが表示されます。
- ▶ F Lockランプ（→P.18）が点灯している場合はF Lock機能（→P.16）が有効になっているので、【Fn】 キーを押さずに【F4】 キーを押すだけで切り替わります。

■ デスクトップから切り替える

- 1 「スタート」ボタン → （設定） → 「デバイス」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「タッチパッド」をクリックします。
- 3 画面右側の「タッチパッド」のオン／オフを切り替えます
 - ・「オン」：フラットポイントを有効にする
 - ・「オフ」：フラットポイントを無効にする

POINT

- ▶ マウスとフラットポイントの同時使用
次の操作で、マウスとフラットポイントを同時に使用する設定を変更できます。
 1. 「スタート」ボタン → （設定） → 「デバイス」の順にクリックします。
 2. 画面左側のメニューで「タッチパッド」をクリックします。
 3. 画面右側の「マウスの接続時にタッチパッドをオフにしない」で設定を変更します。
 - ・チェックを付ける：マウスとフラットポイントを同時に使用できます。
 - ・チェックを外す：マウス接続時にフラットポイントが無効になります。

2.2 マウス

対象 マウス使用時


ここでは、マウスの基本設定について説明しています。

2.2.1 注意事項

- 光学式マウスは、マウス底面から赤い光を発しています。レーザー式マウスは、マウス底面から目には見えないレーザー光を発しています。直接目に向けると、目に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスのセンサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
 - ・ 鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・ 光沢のあるもの
 - ・ 濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
 - ・ 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- 光学式マウスおよびレーザー式マウスは、本来はマウスパッドを必要としませんが、マウス本体や傷が付きやすい机、テーブルの傷防止のために、マウスパッドをお使いになることをお勧めします。

2.2.2 マウスの基本設定を変更する

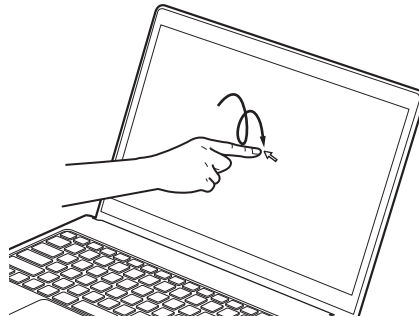
左右のボタンの機能や、マウスポインター、ダブルクリック、スクロールの速度などは、「マウスのプロパティ」で変更できます。

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「デバイス」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「マウス」をクリックします。
- 3 画面右側の「関連設定」の「その他のマウス オプション」をクリックします。「マウスのプロパティ」が表示されます。
- 4 それぞれのタブをクリックし、設定を変更します。

2.3 タッチパネル

対象 タッチパネル搭載機種

本パソコンのタッチパネルは、指で画面をタッチするだけでマウスポインターを操作できます。画面上で直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。

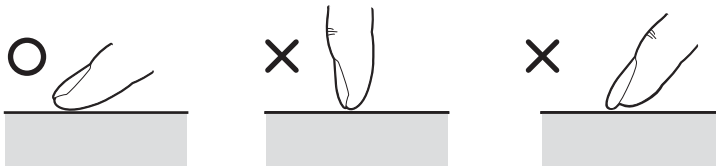


POINT

- ▶ 本パソコンのタッチパネルでは、複数箇所を同時にタッチする操作ができます。

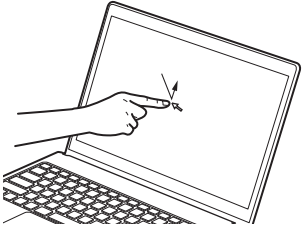
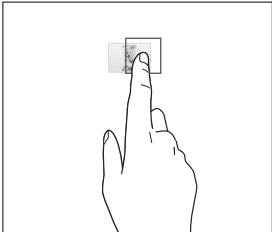
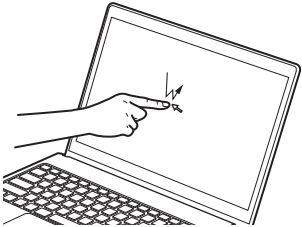
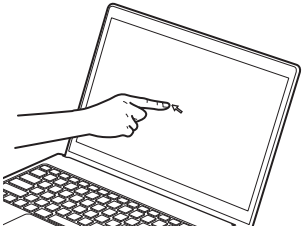
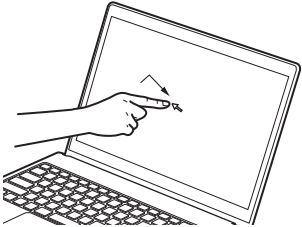
2.3.1 注意事項

- 液晶ディスプレイ（タッチパネル）が結露などで濡れた状態では、タッチ機能が正しく動作しない場合があります。
水滴を拭き取ってからご使用ください。
- 液晶ディスプレイ（タッチパネル）に、ほこりや皮脂が付着していると、タッチ機能が正しく動作しない場合があります。
- アプリによっては、タッチ機能の反応が悪い場合や、タッチ機能に対応していない場合があります。
- 画面を強く押さないでください。
- 濡れた手や、指先が汚れた状態で操作しないでください。
- つめや手袋をした指では操作できません。必ず、指の皮膚の部分が画面に触れるようにしてください。



2.3.2 基本操作

画面上でタップ（マウスのクリックと同様の操作）する場合は、指で操作します。
マウスポインターは、画面上をなぞった方向に移動します。

機能	指の操作	
タップ		画面を1回軽くたたきます。
右タップ		画面を押し、画面に枠が表示されてから指を離します。
ダブルタップ		画面を素早く2回連続して軽くたたきます。
ポイント		画面に軽く触れます。
ドラッグ		画面に軽く押しつけながらなぞります。


2.3.3 文字を入力する

キーボードを使わずに文字を入力するには、「タッチ キーボード」を使用します。


■ 注意事項

- Windowsにサインインしていない場合は「タッチ キーボード」は使用できません。

■ 「タッチ キーボード」を使う

「タッチ キーボード」では、手書きパッドおよびタッチ キーボードによる文字の入力ができます。「タッチ キーボード」の表示は、タスクバーの「タッチ キーボード」アイコン () をタップします。

POINT

- ▶ 「タッチ キーボード」アイコンが表示されていない場合は、次の操作を行ってください。
 1. タスクバーを右クリックします。
 2. 「タッチキーボードボタンを表示」をクリックします。
タスクバーに「タッチ キーボード」アイコン () が表示されます。
 3. 「タッチ キーボード」のアイコンをクリックします。
画面に「タッチ キーボード」が表示されます。

2.4 ディスプレイ

ここでは、本パソコンの液晶ディスプレイを使う方法について説明しています。
複数のディスプレイを使ってマルチディスプレイ機能を使う方法については、「2.5 マルチディスプレイ機能」（→P.32）をご覧ください。


2.4.1 注意事項

- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

2.4.2 明るさを調整する

本パソコンの液晶ディスプレイの明るさは、次の方法で変更できます。

■ スライダーで変更する

- 1 「スタート」ボタン→ （設定）→ 「システム」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「ディスプレイ」をクリックします。
- 3 画面右側のメニューで「明るさと色」のスライダーを左右に動かします。
スライダーを右に動かすと明るく、左に動かすと暗くなります。

POINT

- ▶ アクションセンター（→P.7）でも明るさを調整できます。
スライダーを左右に動かすごとに、明るさのレベルが変わります。

■ キーボードで明るさを変更する

明るくする	【Fn】 + 【F7】 キーを押す
暗くする	【Fn】 + 【F6】 キーを押す

POINT

- ▶ F Lockランプ（→P.18）が点灯している場合はF Lock機能（→P.16）が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F7】 / 【F6】キーを押すだけで明るさを変更できます。


画面左上部に明るさを示すインジケータが表示されます。

■ 「Windows モビリティセンター」 で変更する

- 1 「Windows モビリティセンター」 (→P.8) を起動します。
- 2 「ディスプレイの明るさ」のスライダーを左右に動かします。

2.4.3 解像度を変更する

ここでは、ディスプレイの解像度、リフレッシュレートの変更方法について説明します。

- 1 「スタート」 ボタン→  (設定) → 「システム」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「ディスプレイ」をクリックします。
- 3 解像度を変更します。
 1. 画面右側の「ディスプレイの解像度」で設定したい解像度を選択します。
 2. 設定を確認するメッセージが表示されたら、「変更の維持」をクリックします。
- 4 リフレッシュレートを変更します。
 1. 画面右側の「ディスプレイの詳細設定」をクリックします。
「ディスプレイの詳細設定」ウィンドウが表示されます。
 2. 「ディスプレイ1のアダプターのプロパティを表示します」をクリックします。
 3. 表示されたウィンドウで「モニター」タブをクリックします。
 4. 「画面のリフレッシュレート」を選択し「OK」をクリックします。

POINT

- ▶ 設定可能な値は、「5.3 ディスプレイ」(→P.117) をご覧ください。
- ▶ 次の手順でも、解像度を変更することができます。
 1. 「スタート」 ボタン→ 「インテル® グラフィックス・コマンド・センター」の順にクリックします。
「インテル® グラフィックス・コマンド・センター」が表示されます。
 2. 画面左の「ディスプレイ」アイコンをクリックします。
 3. 「解像度」、「リフレッシュ・レート」を設定します。
 4. 「変更を保存しますか？」と表示されたら「はい」をクリックします。
- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.4.4 拡大表示設定を変更する

ご購入時の解像度より小さい解像度に設定した場合、画面を拡大して表示できます。

1 「スタート」ボタン→「インテル® グラフィックス・コマンド・センター」の順にクリックします。

「インテル® グラフィックス・コマンド・センター」が表示されます。

2 画面左の「ディスプレイ」アイコンをクリックします。

3 「スケール」を設定します。

・中央揃え

画面は拡大されずに中央に表示されます。

・引き伸ばし

画面がディスプレイ全体に拡大されます。

・縦横比を保持する

画面の縦横比を維持したまま最大限に拡大されます。

・ディスプレイ・スケーリングを保持する

ディスプレイの拡大表示機能を使用します。

POINT

▶ ディスプレイの種類や解像度により表示されない項目がある場合があります。

4 「変更を保存しますか？」と表示されたら「はい」をクリックします。

重要

▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

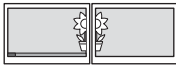
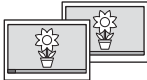
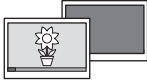
2.5 マルチディスプレイ機能


本パソコンに外部ディスプレイを接続すると、マルチディスプレイ機能が使えるようになります。

ディスプレイの取り扱いについては、お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。外部ディスプレイを接続する方法については、「3.5.2 ディスプレイコネクタ」（→ P.94）をご覧ください。

2.5.1 マルチディスプレイ機能とは

マルチディスプレイ機能により、複数のディスプレイを使用した次のような表示方法を選択できます。

表示方法	説明
拡張デスクトップ表示 	複数のディスプレイを1つの画面として表示します。 Windowsのタスクバーはすべてのディスプレイに表示されます。 それぞれのディスプレイの解像度は別々に設定できます。
クローン表示 	複数のディスプレイに同一の画面を表示します。すべてのディスプレイの解像度は同じである必要があります。
シングル表示 	複数のディスプレイのどれか1つに画面を表示します。表示するディスプレイは切り替えることができます。

【】 + 【P】キーおよび【Fn】 + 【F10】キーを押すことで、表示方法を選択する画面を表示できます。

2.5.2 注意事項

- お使いのディスプレイと本パソコンの両方が対応している解像度のみ表示できます。お使いのディスプレイのマニュアルをご覧ください。表示可能な解像度を確認してください。
- マルチディスプレイ機能を変更するときは、動画を再生するアプリは終了してください。
- マルチディスプレイ機能は、Windowsが起動している場合にのみ有効です。
- 解像度などを変更するときに一時的に画面が乱れることがありますが、故障ではありません。

- パソコン本体のアナログディスプレイコネクタとUSB Type-Cコネクタは、同時に接続することはできません。
 - 最大3画面でマルチディスプレイを設定することができます。
3画面で表示する場合は、次の表の組み合わせで使用してください。
- パソコンの本体液晶ディスプレイに表示する場合

本体液晶 ディスプレイ	パソコン本体 コネクタ				ポートリプリケータ コネクタ			
	HDMI	Type-C	Type-C	アナログ	DP1	DP2	DVI	アナログ
●	●	●	—	—	—	—	—	—
	●	—	●	—				
	●	—	—	●				
	—	●	●	—				
	—	●	—	●				
	—	—	●	●				
	●	●	—	—	—	—	—	—
	●	—	●	—	—	—	—	—
	●	—	—	●	—	—	—	—
	●	—	—	—	●	—	—	—
	●	—	—	—	—	●	—	—
	●	—	—	—	—	—	●	—
	●	—	—	—	—	—	—	●
	—	●	●	—	—	—	—	—
	—	●	—	●	—	—	—	—
	—	●	—	—	●	—	—	—
	—	●	—	—	—	●	—	—
	—	●	—	—	—	—	●	—
	—	●	—	—	—	—	—	●
	—	—	●	●	—	—	—	—
	—	—	●	—	●	—	—	—
	—	—	●	—	—	●	—	—
	—	—	●	—	—	—	●	—
	—	—	—	—	●	●	—	—
	—	—	—	—	●	—	●	—
	—	—	—	—	●	—	—	●
	—	—	—	—	—	●	●	—
	—	—	—	—	—	—	●	●

HDMI：HDMI出力端子
DVI：DVI-Dコネクタ

DP：DisplayPortコネクタ
アナログ：アナログディスプレイコネクタ


Type-C：USB Type-Cコネクタ

■パソコンの本体液晶ディスプレイに表示しない場合

本体液晶 ディスプレイ	パソコン本体 コネクタ				ポートリプリケータ コネクタ			
	HDMI	Type-C	Type-C	アナログ	DP1	DP2	DVI	アナログ
●	●	●	●	—	—	—	—	—
●	●	—	●	—	—	—	—	—
●	●	—	—	—	●	—	—	—
●	●	—	—	—	—	●	—	—
●	●	—	—	—	—	—	●	—
●	—	●	●	—	—	—	—	●
●	—	●	—	—	●	—	—	—
●	—	●	—	—	—	●	—	—
●	—	●	—	—	—	—	●	—
●	—	—	●	—	—	—	—	●
●	—	—	●	—	—	●	—	—
●	—	—	●	—	—	—	●	—
●	—	—	●	—	—	●	—	—
●	—	—	—	—	●	●	—	—
●	—	—	—	—	●	—	●	—
●	—	—	—	—	●	—	—	●
●	—	—	—	—	—	●	—	●
●	—	—	—	—	—	—	●	●
—	●	●	●	—	—	—	—	—
—	●	●	—	—	●	—	—	—
—	●	●	—	—	—	●	—	—
—	●	●	—	—	—	—	●	—
—	●	●	—	—	—	—	—	●
—	●	—	—	—	●	●	—	—
—	●	—	—	—	●	—	●	—
—	●	—	—	—	●	—	—	●
—	●	—	—	—	—	●	●	—
—	●	—	—	—	—	●	—	●
—	●	—	—	—	—	●	—	●
—	—	●	—	—	●	●	—	—
—	—	●	—	—	●	—	●	—
—	—	●	—	—	—	●	—	●
—	—	●	—	—	—	●	—	●
—	—	●	—	—	—	●	—	●
—	—	—	—	—	●	●	—	—
—	—	—	—	—	●	—	—	●
—	—	—	—	—	●	—	—	●
—	—	—	—	—	—	●	●	—

HDMI：HDMI出力端子 DP：DisplayPortコネクタ Type-C：USB Type-Cコネクタ
DVI：DVI-Dコネクタ アナログ：アナログディスプレイコネクタ

2.5.3 マルチディスプレイ機能を設定する

- 1 「スタート」ボタン→（設定）→「システム」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「ディスプレイ」をクリックします。
- 3 画面右側の「複数のディスプレイ」で表示したい画面に設定します。
 - ・表示画面を複製する：クローン表示になります。
 - ・表示画面を拡張する：拡張デスクトップ表示になります。
 - ・1のみに表示する：シングル表示になります。パソコン本体のディスプレイのみに表示します。
 - ・2のみに表示する：シングル表示になります。外部ディスプレイのみに表示します。
- 4 設定を確認するメッセージが表示されたら、「変更の維持」をクリックします。
- 5 必要に応じて、表示する画面の位置、明るさ、解像度、向きを選択します。

POINT

- ▶ 設定可能な値は、「5.3 ディスプレイ」（→P.117）をご覧ください。
- ▶ リフレッシュレートを変更する場合は、「2.4.3 解像度を変更する」（→P.30）の手順4を行ってください。
- ▶ 画面が正常に表示されない場合は、何もせずに15秒程度待ってください。変更前の設定に戻ります。

2.6 サウンド

ここでは、音量の調節方法やオーディオ端子の機能の切り替え方法などについて説明しています。

オーディオ端子に機器を接続する方法については、「3.5.4 オーディオ端子」（→P.96）をご覧ください。

2.6.1 全体の再生音量を調節する

パソコン本体のスピーカーや、本パソコンに接続されたヘッドホンの再生音量は、次の操作で調節します。

□ キーボードで変更する

上げる	【Fn】 + 【F9】 キーを押す
下げる	【Fn】 + 【F8】 キーを押す
ミュートする ミュートを解除する	【Fn】 + 【F3】 キーを押す

POINT

- ▶ F Lockランプ（→P.18）が点灯している場合はF Lock機能（→P.16）が有効になっているので、【Fn】 キーを押さずに【F9】 / 【F8】 / 【F3】 キーを押すだけで音量を変更できます。


画面左上部に音量を示すインジケータが表示されます。

□ フラットポイントで変更する

1 フラットポイントを3本指で上または下方向に弾きます。


上げる	上方向に弾く ・上方向にはらったときに、ボリュームが大きくなりすぎることもあるので、注意してください。
下げる	下方向に弾く

POINT

- ▶ 通知領域の「スピーカー」アイコン（）をクリックして表示されるスライダーで調節することもできます。

2.6.2 アプリごとの再生音量を調節する


アプリごとの再生音量は「音量ミキサー」で調節します。

- 1 音量を調節するアプリを起動します。
- 2 通知領域の「スピーカー」アイコン () を右クリックし、「音量ミキサーを開く」をクリックします。
- 3 「アプリケーション」の一覧で、音量の設定を変更したいアプリの音量を調節します。

2.6.3 機器や項目ごとの音量を調節する

機器や項目ごとの音量は次の手順で調節します。

調節できる機器や項目は、「■ 再生するときに調節できる機器と項目」(→P.38)、「■ 録音するときに調節できる機器と項目」(→P.38) をご覧ください。

- 1 音量を調節したい機器が接続されていない場合は接続します。
「3.5.4 オーディオ端子」(→P.96)
- 2 通知領域の「スピーカー」アイコン () を右クリックし、「サウンドの設定を開く」をクリックします。
- 3 画面右側の「関連設定」の「サウンドコントロールパネル」をクリックします。
「サウンド」ウィンドウが表示されます。
- 4 「再生」タブまたは「録音」タブをクリックします。
- 5 音量を調節したい機器を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 6 「レベル」タブをクリックします。
- 7 音量を調節したい項目で音量を調節し、「OK」をクリックします。

■ 再生するときに調節できる機器と項目

機器／設定項目	説明
スピーカー	
Realtek HD Audio output	パソコン本体のスピーカーや本パソコンに接続されたヘッドホンから出力される音の再生音量
マイク	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子（マイク入力設定時）から入力される音の再生音量
ライン入力	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子（ライン入力設定時）から入力される音の再生音量
Line Out	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子（ライン出力設定時）から出力される音の再生音量
[ディスプレイ名] 注1注2	
インテル(R) ディスプレイ用オーディオ	ディスプレイから出力される音の再生音量

注1：「[ディスプレイ名]」には、接続されたディスプレイの名称が表示されます。
 注2：次のコネクタに、音声出力に対応したディスプレイを接続した場合に表示されます。
 ・HDMI出力端子
 ・USB Type-Cコネクタ

■ 録音するときに調節できる機器と項目

機器／設定項目	説明
マイク	
マイク	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子（マイク入力設定時）から入力される音の録音音量
マイクブースト	マイクブーストのレベル（マイク入力設定時）
ライン入力	
ライン入力	マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子（ライン入力設定時）から入力される音の録音音量


2.6.4 オーディオ端子の機能を切り替える

オーディオ端子（マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子）の機能は、次の手順で切り替えます。

- 1 オーディオ端子に機器を接続します（→P.96）。
- 2 「スタート」ボタン→「Realtek Audio Console」の順にクリックします。
- 3 画面左側のメニューで「デバイス詳細設定」をクリックします。
- 4 画面右側の「コネクタを再接続しています」の下に表示されているコネクタで、使用したいデバイスを選択します。

2.6.5 既定のオーディオ機器を選択する

音声を録音または再生する機器が複数使用可能な場合、既定の機器を選択できます。

- 1** 通知領域の「スピーカー」アイコン（）を右クリックし、「サウンドの設定を開く」をクリックします。
- 2** 画面右側の「関連設定」の「サウンドコントロールパネル」をクリックします。「サウンド」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「再生」タブまたは「録音」タブをクリックします。
- 4** 既定に設定する機器を選択し、「既定値に設定」をクリックします。
- 5** 「OK」をクリックします。

2.6.6 スピーカーの音質を調節する

パソコンに内蔵されているスピーカーの音質を、より詳細に調節することで、クリアで広がりのあるステレオ感や、重厚感のある低音を実現します。

重要

- ▶ Waves MaxxAudioの音質の調節は、内蔵スピーカーとヘッドホンが対象となります。
- ▶ お使いの機種や状況によって、調節できない項目もあります。
- ▶ サンプルレートを 192000Hz に設定する場合は、192000Hz の音源を忠実に再生するために、Waves MaxxAudioをOFFにしてお使いください。

1 「スタート」ボタン→「Waves MaxxAudio」の順にクリックします。

2 好みの音質になるように、設定を変更します。



- (1) MaxxAudio 機能のON/OFFを切り替えます。
- (2) 各設定を初期値に戻します。
- (3) ヘッドホン使用時は、「ヘッドフォン」と表示されます。内蔵スピーカー使用時は、「内部スピーカー」と表示されます。
ここに表示された出力デバイスと(4)のコンテンツのジャンルの組み合わせごとに音質を調節できます。
- (4) 「音楽」「映画」からコンテンツのジャンルを選択できます。
- (5) イコライザー
●をドラッグすることで、好みの周波数特性を設定できます。
- (6) レベル・メーター

- (7) ドラッグして青い部分を増減させ、各種音質の調節ができます。
- MaxxBass
音響心理学に基づいた倍音再生技術により、低音を充分感じ取れるようにします。
 - 詳細
高域の小さな音は大きくして聞き取りやすくする一方、高域の大きな音はやかましくならないよう一定レベル以下に抑えます。
 - ワイド
左右スピーカーの向く角度だけを疑似的に変えて、ステレオ感を広げます。
ヘッドホン使用時は0になります。
- (8) 各機能のON/OFFを切り替えます。
- 寸法
ヘッドホン使用時、スピーカーで聞いているような自然な広がりステレオ感を得られます。
スピーカー使用時はONにできません。
 - ノイズ低減
背景から聞こえる定常的なノイズを除去します。通常はOFFでお使いください。
 - リバイブ
mp3などの低ビットレート・ソースで失われがちな音を復元することで音質を改善します。

2.7 省電力

ここでは、パソコンを使わないときに省電力にする省電力状態と、その他の節電機能について説明しています。

2.7.1 省電力状態

パソコンを使用しないときに、画面を消灯して消費電力を抑えます。

省電力状態	説明
スリープ (モダンスタンバイ)	<p>メモリに作業中のデータなどを保存し、Windowsの動作を一時的に停止させ待機状態になります。</p> <p>パソコンの電源は入っているため、すぐにレジュームできます。</p> <p>スリープ中は、対応アプリを使用することによりメールの受信をしたり、音楽を再生したりできます。</p> <p>※待機状態および対応アプリ稼働中は電力を消費するので、バッテリー駆動時間は短くなります。</p> <p>※スリープ中はWindows Updateなど一部の機能が動作します。そのためファンが回転したりバッテリーの消費が増える場合があります。</p> <p>※スリープ中にバッテリー残量が約5%減少すると、休止状態に移行します。</p> <p>また、パソコンのハードウェア構成や接続されている周辺機器によって、スリープから休止状態に移行するまでの時間は異なります。</p>
休止状態 ^注	<p>フラッシュメモリディスクに作業中のデータなどを保存し、電源を切ります。</p> <p>ただし、作業中のデータなどを保存しているため、パソコンの起動後に作業を再開できます。</p> <p>レジュームはスリープよりも少し時間がかかります。</p>



注：休止状態を「有効」にする場合は設定が必要です。

■ 注意事項

- 状況により省電力状態にならない場合があります。メッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。
- 状況により省電力状態になるのに時間がかかる場合があります。
- レジュームした後、すぐに省電力状態にしないでください。必ず10秒以上たってから省電力状態にするようにしてください。
- 省電力状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず10秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- スリープ中にACアダプターを接続するとスリープから復帰しますが、ユーザー操作がない場合は数秒でスリープ状態に戻ります。
- 休止状態では、メール受信や音楽再生はできません。また、スリープ時に動作していたWindows Updateなど一部の機能は動作しません。
- 液晶ディスプレイを閉じたときに何もしないように設定した場合は、本パソコンの動作中には液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、故障の原因となります。
- 電源ボタンを押す以外の方法でスリープ状態からレジュームさせると、Windowsの仕様により画面が表示されない場合があります。
その場合は、キーボードやマウスなどから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態ですら一定時間経過すると、再度スリープ状態になります。

■ 省電力状態にする

ご購入時は次のように設定されています。

パソコンの動作	操作／条件
スリープに移行	電源ボタンを押す ^{注1}
	液晶ディスプレイを閉じる ^{注2}
	「スタート」ボタン→  （電源）の順にクリックし、「スリープ」を選択する
	一定時間操作しない 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.46）
休止状態に移行 ^{注3}	バッテリー残量が少なくなる 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.46）
	「スタート」ボタン→  （電源）の順にクリックし、「休止状態」を選択する
	一定時間操作しない 「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.46）

注1：電源ボタンは10秒以上押さないでください。電源ボタンを10秒以上押し、Windowsが正常終了せずに本パソコンの電源が切れてしまいます。

注2：液晶ディスプレイを閉じた後は、電源ランプ（→P.18）で省電力状態になったことを確認してください。省電力状態にならないと放熱が妨げられ、故障の原因となります。

注3：休止状態を「有効」にする場合は設定が必要です。

■ 省電力状態からレジュームする

ご購入時は次のように設定されています。

パソコンの動作	代表的な操作／条件
スリープからレジュームする	電源ボタンを押す
	液晶ディスプレイを開く ^{注1}
	USBマウスで次の操作をする ・クリックボタンを押す
	Bluetoothマウスで次の操作をする ・クリックボタンを押す ・スクロールボタンを動かす ・マウスを動かす
	フラットポイントを操作する
	キーボードの操作をする
	対応アプリからの起動
休止状態からレジュームする	電源ボタンを押す
	液晶ディスプレイを開く ^{注1}

注1：液晶ディスプレイを開いたときの設定は、「カバーを閉じたときの動作」の設定と連動します。

2.7.2 電源を切る

ここでは、Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切る方法を説明します。

■ 注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し必要なデータを保存してください。
- 電源を切るとき、ノイズが発生することがあります。その場合はあらかじめ音量を下げておいてください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れしないでください。必ず10秒以上たってから電源を入れるようにしてください。

■ 電源の切り方

次のいずれかの方法で、パソコン本体の電源を切ります。


□ Windowsを終了する

- 1 「スタート」ボタン→  (電源) の順にクリックします。
- 2 「シャットダウン」をクリックします。

□ 完全に電源を切る

重要

- ▶ 次のような場合は、ここで説明している手順でパソコンの電源を切ってください。
 - ・ BIOS セットアップを起動する
 - ・ 診断プログラムを使用する
 - ・ メモリを交換する
 - ・ バッテリーを交換する
 - ・ nanoSIMカードをセットする／取り出す
 - ・ フラッシュメモリディスクデータ消去

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「更新とセキュリティ」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「回復」をクリックします。
- 3 画面右側のメニューで「今すぐ再起動」をクリックします。
- 4 「PCの電源を切る」をクリックします。

2.7.3 本パソコンの節電機能


本パソコンには、さまざまな節電機能が搭載されています。これらの機能と有効となるパソコンの状態との関係は次のとおりです。

節電機能	パソコンの状態			
	電源オン	スリープ状態	休止状態	電源オフ
省電力設定（→P.45） パソコンの消費電力を低減する。	○	—	—	—
Standby Energy Saver（→P.47） スリープ運用時の消費電力を抑える。	○	○	○	—
ピークシフト（→P.50） ACアダプタとバッテリーの運用を切り替える。	○	—	—	—
ECO Sleep（→P.51） ACアダプタからの電力供給を停止する。	—	—	○	○

2.7.4 省電力設定

使用状況にあわせて電源プランを切り替えたり設定を変更することで、消費電力を抑えることができます。

■ 電源プランを切り替える

- 1 「スタート」ボタン→（設定）→「システム」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「電源とスリープ」をクリックします。
- 3 画面右側の「関連設定」の「電源の追加設定」をクリックします。
「電源オプション」が表示されます。
- 4 お使いになる電源プランをクリックします。


POINT

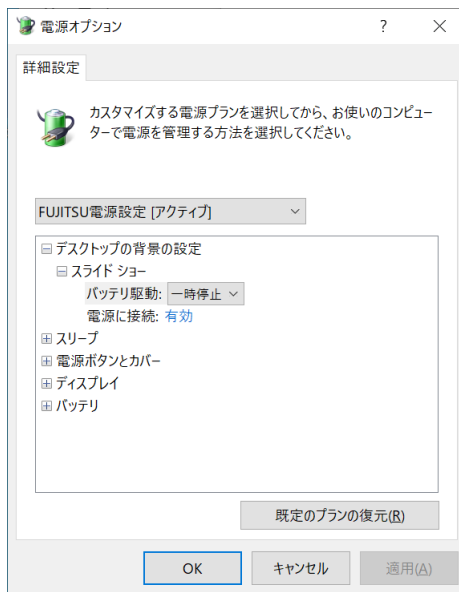
- ▶ ご購入時の電源プランは「FUJITSU 電源設定」が選択されています。使用する状況によりプランを変更してください。
また、電源プランは新規に作成することができます。

□ 新規に電源プランを作成する場合

- 1 「電源オプション」ウィンドウ左のメニューで「電源プランの作成」をクリックします。
「電源プランの作成」ウィンドウが表示されたら、メッセージに従って操作します。

■ 電源プランの設定を変更する

- 1 「スタート」ボタン→（設定）→「システム」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「電源とスリープ」をクリックします。
- 3 画面右側の「関連設定」の「電源の追加設定」をクリックします。
「電源オプション」が表示されます。
- 4 設定を変更するプランの「プラン設定の変更」をクリックします。
- 5 「詳細な電源設定の変更」をクリックします。



- 6 リストから項目を選択し、設定を変更します。

POINT

- ▶ 一部の設定は手順1や手順2で表示される画面でも変更できます。

- 7 「OK」をクリックします。

2.7.5 Standby Energy Saver

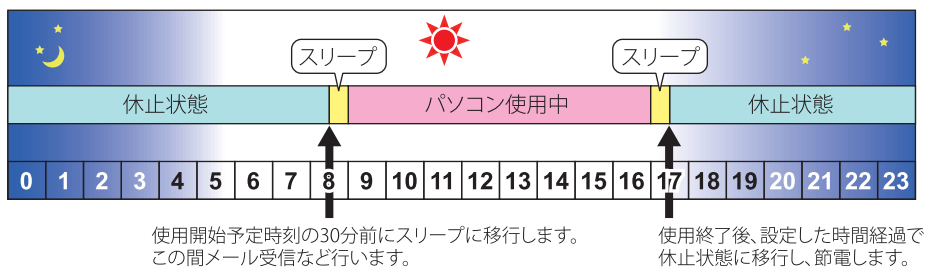
本機能を設定するとパソコンの節電や、起動時に速やかに業務を開始することができます。

- パソコン使用終了後、設定した移行時間が経過するとスリープ状態から休止状態に切り替わります。休止状態にすることで電力消費を抑えることができます。
- パソコン使用開始予定時刻の 30 分前になると、休止状態からスリープ状態に切り替わります。スリープ中にメール受信を行い、業務開始時にはパソコンを素早く起動できます。



□ 設定例

次の設定でのイメージです。


- ・ パソコン使用開始予定時刻：9:00
- ・ 使用終了予定時刻：17:00
- ・ パソコン使用終了後の休止移行時間：30分



■ Standby Energy Saverをお使いになるうえでの注意

- 本機能は、電源オフ状態およびサインアウト時は動作しません。
- 本機能は、電源オプション（→P.46）の「スリープ」で「次の時間が経過後休止状態にする」を変更すると正しく動作しません。
- 使用開始予定時刻の30分前にパソコンを起動した場合は、一旦スリープに移行することがあります。
- 次の場合は本パソコンを再起動するか、Windowsにサインインし直してください。
 - ・ 「タスクマネージャー」の「スタートアップ」タブで「Standby Energy Saver」の有効／無効を切り替えた
 - ・ 「スタート」ボタン→ (設定) → 「アプリ」の「スタートアップ」で「Standby Energy Saver」のオン／オフを切り替えた
 - ・ 「スタート」ボタン→ (設定) → 「時刻と言語」の「日付と時刻」で変更をした
- Standby Energy Saverをアンインストールする場合は、本機能をオフにしてください。
- 本パソコンに複数のユーザーアカウントが登録されている場合の動作は、次のとおりです。
 - ・ サインインしたユーザーの設定が「オフ」でも、「オン」にしているユーザーの設定が有効になります。
 - ・ それぞれのユーザーが「オン」にしていると、「パソコン使用終了後の休止移行時間」はサインインしたユーザーの設定が有効になります。
 - ・ それぞれのユーザーが「オン」にしていると、それぞれのユーザーの次回開始時刻30分前にパソコンがスリープになります。

■ Standby Energy Saverを有効にする

- 1 「スタート」ボタン→ （設定）→ 「Extras」→ 「Standby Energy Saver」の順にクリックします。
「Standby Energy Saver」が表示されます。
- 2 Standby Energy Saver機能を「オン」にします。
- 3 「ログイン時にこのアプリでStandby Energy Saverタスクを実行しますか？」と表示されたら「有効にする」をクリックします。
- 4 各項目を設定します。



設定項目	内容
パソコン使用開始予定時刻	パソコンを使用開始する予定時刻を設定します。 ここで設定した時刻の30分前になると、スリープに移行します。
使用終了予定時刻	業務を終了する予定時刻を設定します。 設定時刻を過ぎ、「パソコン使用終了後の休止移行時間」で設定した時間が経過するとスリープから休止状態に移行します。
パソコン使用終了後の休止移行時間	「使用終了予定時刻」以降の、スリープから休止状態に移行するまでの時間を設定します。
パソコンを使用する曜日	本設定を有効にする曜日を設定します。（複数選択可） ※必ず選択してください。 ※チェックが付いていない曜日は、「パソコン使用終了後の休止移行時間」で設定した時間が経過すると、スリープ状態から休止状態に移行します。

- 5 「パソコン使用設定をして終了」をクリックします。
設定が反映され、Standby Energy Saverが有効になります。

 **重要**

- ▶ 設定項目に不備がある場合は、項目が赤くなりメッセージが表示されます。正しい内容に修正してください。



Standby Energy Saver

ヘルプ

使用終了後に設定した移行時間経過で休止状態となり、節電することができます。
また、使用開始予定時刻の30分前にスリープ（モダンスタンバイ）に移行し、速やかに業務を開始できます。

Standby Energy Saver機能

オン

パソコン使用開始予定時刻 使用終了予定時刻

9 00 6 00

パソコン使用開始から使用終了までは19時間以内で設定してください。

パソコン使用終了後の休止移行時間

30分

パソコンを使用する曜日

月 火 水 木 金 土 日

1日以上チェックを付けてください。

パソコン使用設定をして終了

FUJITSU

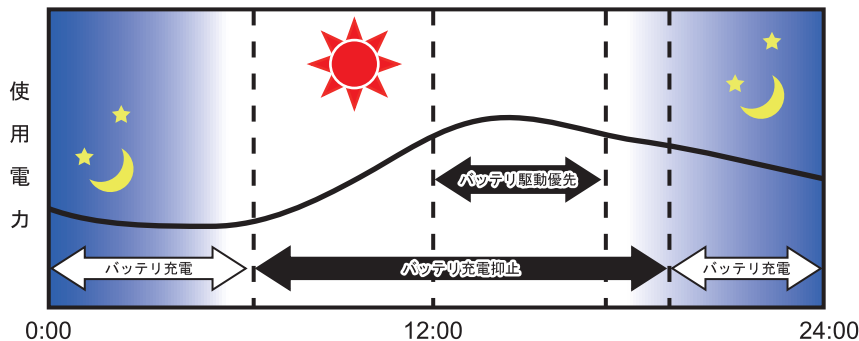
2.7.6 ピークシフト

重要

- ▶ 「ピークシフト設定」をご使用になる場合は、インストールする必要があります。
インストール方法については、『製品ガイド（共通編）』の「1章 アプリ」—「1.2.1 「ドライバーディスク検索」からのインストール」をご覧ください。

設定した時間にあわせてACアダプタ運用とバッテリー運用を切り替えられる機能です。1日のうち電力需要のピークタイムをはさんでパソコンを連続してお使いになる場合に有効です。

● 使用例



重要

- ▶ バッテリーは消耗品であり、充放電を繰り返すたびに少しずつ性能が劣化します。ピークシフトを利用するとバッテリーの充放電回数が増えるため、性能劣化が早まる場合があります。なお、バッテリーが劣化している場合には、バッテリー駆動時間が短くなり、十分な効果を得られないことがあります。
- ▶ スリープ中にピークシフト終了設定時刻になると、一旦パソコンがレジュームしてからピークシフトが終了します。
省電力設定（→P.45）が次の場合は、そのままパソコンが起動したままになります。
 - ・電源プランの「電源に接続」の設定
「ディスプレイの電源を切る」および「コンピューターをスリープ状態にする」が「適用しない」消費電力を抑えるためには、任意の時間を設定してください。

■ ピークシフトを設定する

ピークシフトが動作する期間と、バッテリー駆動優先の時間帯、バッテリー充電抑止の時間帯を設定できます。一度設定を行うと、パソコンが起動するたびに、自動的に有効になります。

- 1 「スタート」ボタン→「FUJITSU - ピークシフト設定」→「ピークシフト設定」の順にクリックします。
「ピークシフト設定」が表示されます。
- 2 「設定」をクリックします。
- 3 必要に応じて、設定を変更します。


POINT

- ▶ 「ピークシフト設定」では、2つの期間を設定できます。
例えば、設定1に夏季、設定2に冬季の設定を行うなどのように使用します。
- ▶ ピークシフトの詳しい使い方は、次の操作で表示されるヘルプをご覧ください。
 1. 「スタート」ボタン→「FUJITSU - ピークシフト設定」→「ピークシフト設定」の順にクリックします。
 2. 「ソフトウェア説明書」をクリックします。

2.7.7 ECO Sleep

電源オフ状態や休止状態でバッテリーの充電が完了している場合に、ACアダプタからの電力供給を止めることにより消費電力を抑える機能です。

■ ECO Sleepを有効にする

- 1 「スタート」ボタン→（設定）→「Extras」→「バッテリーユーティリティ」の順にクリックします。
- 2 「ECO Sleep」をクリックします。
- 3 「変更」をクリックします。
- 4 ECO Sleepを有効にする場合は「低待機モード」を、ECO Sleepを無効にする場合は「通常モード」を選択し、「OK」をクリックします。

2.8 バッテリ

ここでは、バッテリーを使用して本パソコンを使用する方法や注意事項について説明しています。バッテリーの充電時間や駆動時間など、バッテリーの仕様については「5.1 本体仕様」(→P.102)をご覧ください。

2.8.1 注意事項

■ バッテリーの取り扱い

- 本パソコンに対応している弊社純正品をお使いください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」(https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/)をご覧ください。
- バッテリーを落としたり強い衝撃を与えたりしないでください。また、落としたり強い衝撃を与えたりしたバッテリーは使用しないでください。
- バッテリーやパソコン本体のバッテリーコネクタには触れないでください。
- バッテリーは分解しないでください。
- 長期間（約1ヶ月以上）本パソコンを使用しないときは、バッテリーを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリーの寿命が短くなります。
- 高温環境に放置しないでください。バッテリーが劣化します。

■ バッテリーで運用するとき

- 本パソコンの使用中にバッテリーの残量がなくなると、作成中のデータが失われることがあります。バッテリーの残量に注意してお使いください。バッテリーの残量を確認するには、「2.8.3 バッテリーの残量を確認する」(→P.55)をご覧ください。
- 本パソコンを長く使用していると、バッテリーの残量が正確に表示されなくなる場合があります。故障ではありませんのでそのままお使いください。
正しく残量を表示されるようにするには、満充電まで充電後、BIOSセットアップ画面にて電源が切れるまで放電してください。
- パソコンの機能を多用したり負荷の大きいアプリを使用したりすると、多くの電力を使用するためバッテリー駆動時間が短くなります。このような場合や重要な作業を行う場合は、ACアダプタを接続してください。
- バッテリーが満充電状態のときに、ACアダプタを接続したまま放置しないでください。
- バッテリーは使用しなくても少しずつ自然放電していきます。
- 低温時にはバッテリー駆動時間が短くなる場合があります。
- 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリーの充電能力が低下します。
また、ACアダプタを接続している場合も、パソコン本体の使用状況により、バッテリー残量が減る場合があります。
- 充電保管庫などの密閉環境で複数台のパソコンを一度に充電する場合、密閉環境内に熱がこもりバッテリー充電時間が仕様と異なることがあります。また、温度条件により充電が停止することがあります。

- バッテリー残量が空の状態でご使用の本パソコンに添付のACアダプタを接続した直後は、電源ボタンを押しても電源が入らない場合があります。この場合は、1分程度ACアダプタを挿した状態でお待ちください。自動的に起動しない場合は、再度電源ボタンを押してください。
- バッテリー部は通常のご使用時および充電時に多少暖かくなりますが、異常ではありません。
- 長期間パソコンを使用しない場合には、高温環境となる保管場所は避け、バッテリー残量を50%程度にしてから保管してください。
また、長期間使用しない場合においても2年以内に必ず充電を行ってください。
- バッテリーの残量が残りわずかの場合、バッテリー運用またはUSB Type-Cコネクタから5Vで給電中のときは、本パソコンは起動しません。本パソコンに添付のACアダプタを接続してください。
- 「バッテリー残量1%未満です。ACアダプタを抜かずにバッテリーを充電してください。バッテリーが1%以上充電されるまでパソコンのパフォーマンスが低下します。」というメッセージが表示された場合は、バッテリー残量が1%に到達するまでシステムの電力保護のためにパフォーマンスを下げた状態で動作します。その間、パソコンの起動やアプリの動作に通常よりも時間がかかります。

■ バッテリーの寿命

□ 寿命となる要因

- ① バッテリーの充電／放電を繰り返した回数（サイクル数）
- ② バッテリーが満充電状態でACアダプタを接続したまま放置
- ③ 高温環境での使用／保管、使用時の負荷が高いなど、環境温度が高温である

POINT

- ▶ バッテリーの寿命を延ばすため「バッテリーユーティリティ」の充電モードで、満充電にならないようにすることができます。


□ 寿命について

- バッテリーは消耗品です。
- バッテリーの寿命は、使用環境および保管方法、ご使用の時間や頻度によって大きく異なります。
- 長期間使用し、次のような症状が出た場合、バッテリーの寿命が考えられます。
 - ・ バッテリーの駆動時間や充電時間が極端に短くなる
 - ・ 満充電にならなくなる
 - ・ 充電できなくなる
 - ・ 使用中に勝手に電源が切れる
- バッテリーはご使用条件により、寿命が近づくにつれて膨れる場合があります。リチウムイオンバッテリーの特性であり、安全上問題はありません。ただし、内部機器を圧迫し故障の原因となりますので、修理を依頼してください。
- パソコン本体を長期間使用しなかった場合にも、バッテリーは劣化します。
- 「バッテリーユーティリティ」でバッテリーの満充電量を抑えることにより、バッテリーの寿命を延ばすことができます。詳しくは、「2.8.5 バッテリーの充電モードを変更する」(→P.58)をご覧ください。

■ バッテリー駆動時間について

- 本パソコンは、他メーカーのバッテリー駆動時間との比較のために、共通の測定方法として一般社団法人電子情報技術産業協会の「JEITAバッテリー動作時間測定法（Ver2.0）」を採用しています。
- バッテリー駆動時間はお使いの環境によって大きく異なります。
次のことを行うことにより、バッテリー駆動時間を延ばすことができます。
 - ・液晶ディスプレイの画面を暗くする
詳しくは、「2.4.2 明るさを調整する」（→P.29）をご覧ください。
 - ・省電力機能を活用する
詳しくは、「2.7 省電力」（→P.42）をご覧ください。
 - ・時間のかかるアプリ（ウイルス対策アプリのスキャンなど）は、ACアダプタを接続して使用する

POINT

- ▶ 消費電力が大きいアプリは次の操作で確認できます。（バッテリー運用時のみ）
 1. 「スタート」ボタン→（設定）→「システム」の順にクリックします。
 2. 次の操作を行います。
 - Windows 11の場合
 1. 「電源&バッテリー」をクリックします。
 2. 「バッテリーの使用状況」をクリックして、表示された「アプリごとのバッテリー使用量」で消費電力が大きいアプリを確認します。
 - Windows 10の場合
 1. 「バッテリー」をクリックします。
 2. バッテリー残量の下に表示されている「バッテリー残量に影響を及ぼしているアプリを表示する」をクリックします。
消費電力が大きいアプリを確認します。
- ・周辺機器を取り外す
- ・無線LAN／Bluetoothの電波を停止する
詳しくは、「2.9.5 無線通信機能の電波を発信する／停止する」（→P.63）をご覧ください。
- ・音声出力をミュート（消音）に切り替える
詳しくは、「2.6.2 アプリごとの再生音量を調節する」（→P.37）をご覧ください。

この他、ドライバーや各種アプリを最新の状態に更新することで、バッテリー駆動時間を延ばせる可能性があります。詳しくは、「BIOSやドライバーのアップデートについて」（→P.8）をご覧ください。

2.8.2 バッテリーを充電する

1 パソコン本体にACアダプタを接続します。

充電が始まります。バッテリーの充電状態は、バッテリーステータスランプ（→P.18）で確認できます。

バッテリーステータスランプ	バッテリーの充電状態
オレンジ色 ^{注1}	充電中
消灯	充電完了

注1：点滅している場合は、バッテリーの温度が高すぎる、または低すぎるなどの理由でバッテリーの保護機能が働き充電が停止している状態です。バッテリーの温度が正常に戻れば点灯し、充電を再開します。

POINT

- ▶ バッテリーを保護するため、次の場合は充電は始まりません。
 - ・充電モードが「フル充電モード」で、バッテリーの残量が90%以上の場合
 - ・充電モードが「80%充電モード」で、バッテリーの残量が70%以上の場合バッテリーの残量が少なくなると自動的に充電が始まります。

2.8.3 バッテリーの残量を確認する

バッテリーの残量は、バッテリーステータスランプ（→P.18）で確認できます。

バッテリーステータスランプ	バッテリーの残量
消灯	100%～21%
赤色	20%～0%

重要

短い間隔で赤色に点滅している場合は、バッテリーの異常です。
「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

■ バッテリーステータスランプが赤色に点灯したら

バッテリーの残量はわずかになっています。すみやかに次のいずれかの対処を行ってください。

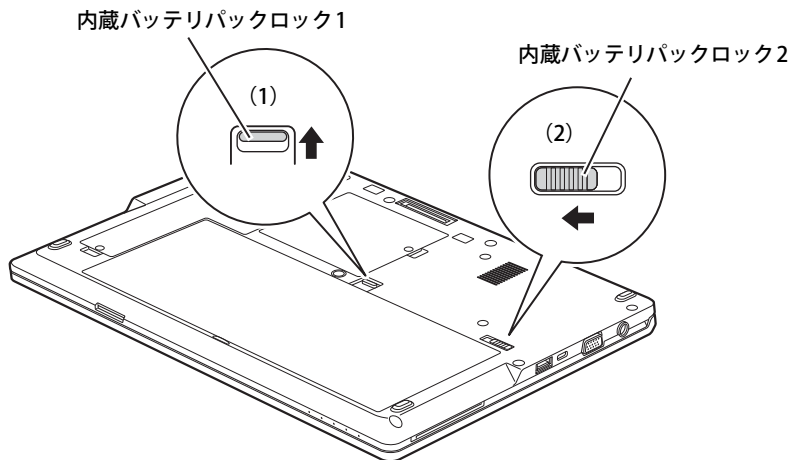
- ACアダプタを接続する
- 充電済みのバッテリーに交換する（→P.56）
- 本パソコンを休止状態にする
「■ 省電力状態にする」（→P.43）
- 作業を終了して本パソコンの電源を切る
「2.7.2 電源を切る」（→P.44）

ご購入時は、バッテリーの残量が約10%になると自動的に休止状態になるように設定されています。設定を変更するには、「■ 電源プランの設定を変更する」（→P.46）をご覧ください。

2.8.4 バッテリを交換する

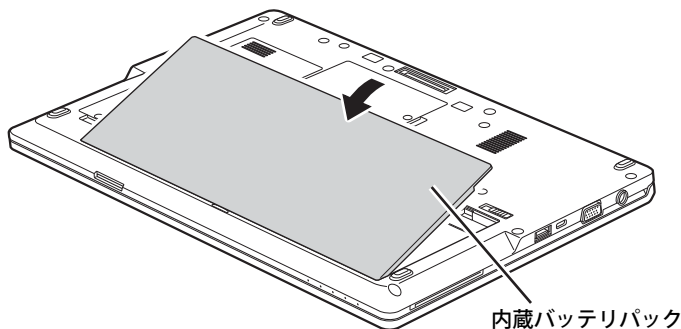
ここでは内蔵バッテリーパックの交換方法について説明します。
交換したバッテリーの処分については、『製品ガイド（共通編）』の「廃棄・リサイクル」をご覧ください。

- 1** パソコンの電源を切り、ACアダプタを取り外します。
電源の切り方は、「2.7.2 電源を切る」（→P.44）をご覧ください。
- 2** 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を静かに裏返します。
- 3** (1) 内蔵バッテリーパックロック1を矢印の向きに押しながら、(2) 内蔵バッテリーパックロック2を矢印の向きにスライドさせ、内蔵バッテリーパックのロックを解除します。



(イラストは機種や状況により異なります)

- 4** くぼみに指をかけ、内蔵バッテリーパックを斜め上に持ち上げて取り外します。

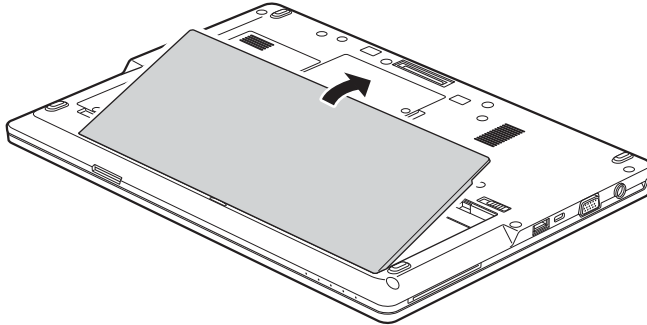


(イラストは機種や状況により異なります)

- 5** 内蔵バッテリーパックのロックが解除されていることを確認し、新しい内蔵バッテリーパックのふちとパソコン本体のふちを合わせ、しっかりとめ込みます。

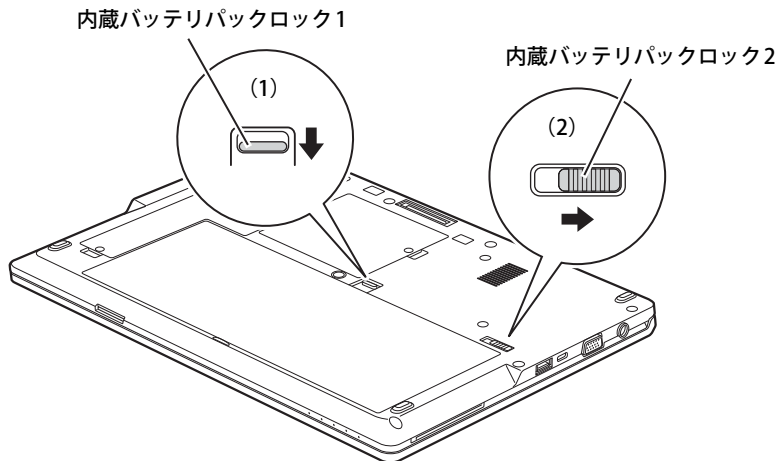
重要

- ▶ バッテリーの両端が浮いていないか、必ず確認してください。



（イラストは機種や状況により異なります）

- 6** (1) 内蔵バッテリーパックロック1を矢印の向きに押しながら、(2) 内蔵バッテリーパックロック2を矢印の向きにスライドさせ、内蔵バッテリーパックをロックします。




（イラストは機種や状況により異なります）

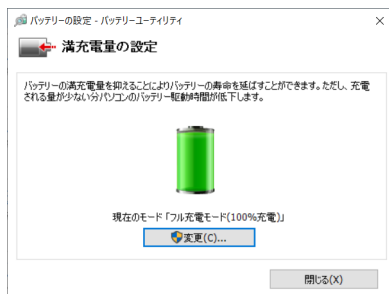
2.8.5 バッテリーの充電モードを変更する

バッテリーの充電モードを「80%充電モード」に変更しバッテリーの満充電量を抑えることにより、バッテリーの寿命を延ばすことができます。

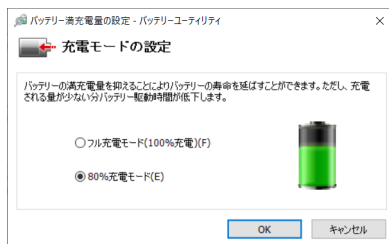
重要

- ▶ 「80%充電モード」に設定すると、バッテリー駆動時間は「フル充電モード」よりも短くなります。
- ▶ ACアダプタを接続して使用することが多い場合は、「80%充電モード」に設定することをお勧めします。

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「Extras」 → 「バッテリーユーティリティ」の順にクリックします。
- 2 「バッテリー満充電量」をクリックします。
- 3 「変更」をクリックします。



- 4 「フル充電モード (100%充電)」または「80%充電モード」を選択し、「OK」をクリックします。




- 5 「閉じる」をクリックします。

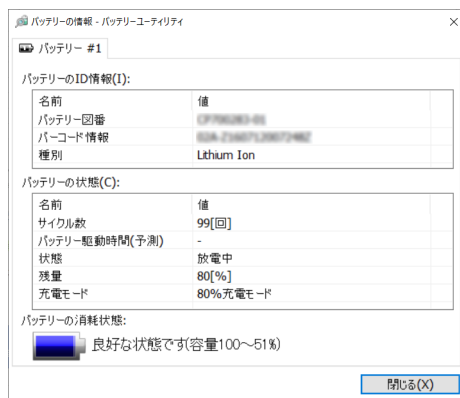
2.8.6 バッテリーの状態を確認する

バッテリーの情報や消耗状態の確認は、「バッテリーユーティリティ」で行うことができます。

重要

- ▶ バッテリーの残量や消耗状態を正しく表示するには、定期的な満充電／完全放電が必要になります。満充電／完全放電を行わずに使い続けると、「バッテリーユーティリティ」に表示される残量や消耗状態が、実容量と著しく異なることがあります。
- ▶ 満充電／完全放電するには
バッテリーの充電モードを「80%充電モード」にしている場合は、「フル充電モード」に変更してください。
満充電後ACアダプタを取り外し、BIOSセットアップ画面の状態でも電源が切れるまで放電してください。自動で電源が切れると、放電が完了します。
BIOSセットアップについては、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「BIOSセットアップの操作のしかた」をご覧ください。

- 1 「スタート」ボタン→  (設定) → 「Extras」 → 「バッテリーユーティリティ」の順にクリックします。
- 2 「バッテリーの情報」をクリックします。



「サイクル数」、「残量」、「消耗状態」などを確認できます。

2.9 通信

ここでは本パソコンの通信機能について説明しています。

ネットワーク機器を接続してお使いになる場合は、お使いのネットワーク機器のマニュアルもご覧ください。また、搭載されている通信機能の仕様については、「5.1 本体仕様」（→P.102）をご覧ください。

POINT

- ▶ 本パソコンには、ネットワーク環境を簡単に切り替えられるユーティリティ「Plugfree NETWORK」が添付されています。
『製品ガイド（共通編）』の「1章 アプリ」—「1.2.1 「ドライバズディスク検索」からのインストール」をご覧ください。「Plugfree NETWORK」をインストールしてください。
また、「Plugfree NETWORK」の詳しい使い方は、次の操作で表示されるヘルプをご覧ください。
 1. 「スタート」ボタン→「Plugfree NETWORK」→「使用場所管理」および「ネットワーク診断」の順にクリックします。

2.9.1 有線LAN

対象 パソコン本体およびポトリプリケータ使用時

重要

- ▶ 上記の対象周辺機器の有線LANでネットワークに接続する場合
パソコン本体と周辺機器を接続してください。

LANケーブルを接続する方法については、「3.5.5 LANコネクタ」（→P.96）をご覧ください。

LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

POINT

- ▶ 本パソコンはMACアドレスパススルー機能に対応しています。
この機能をご利用になるには、MACアドレスパススルーに対応した周辺機器と接続する必要があります。
また、本機能について次の注意事項をご確認ください。
 - ご購入時は無効に設定されています。設定の変更はBIOSセットアップで行います。
BIOSセットアップの「詳細」メニューの「各種設定」→「MACアドレスパススルー」を「使用する」に設定してください。
BIOSセットアップについては、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「BIOSセットアップの操作のしかた」をご覧ください。
 - 本機能に対応した周辺機器の同時使用（有線LANの複数接続）はできません。
 - 本機能でネットワークに接続した後に、本機能に対応した他の周辺機器でネットワークに接続できないことがあります。
同一のDHCPサーバからIPアドレスを取得する場合、先にDHCPサーバに接続した周辺機器がIPアドレスを取得しているため、後から接続した周辺機器はIPアドレスを取得できません。
他の周辺機器から接続したい場合は、パソコンを再起動するか、先に接続した周辺機器を取り外すことで、IPアドレスを取得できます。

■ 注意事項

- 本パソコンに搭載されている LAN デバイスには節電機能があります。この機能は、Windows の省電力機能によってディスプレイの電源が切れると、通信速度を下げることで電力消費を抑えるものです。
節電機能が有効に設定されていると、次の条件にすべて一致する環境でお使いの場合に、Windows の省電力機能によってディスプレイの電源が切れるときに通信エラーが発生することがあります。
 - ・ LAN デバイスの設定で、「速度とデュプレックス」が「オートネゴシエーション」に設定されているとき（ご購入時の設定）
 - ・ 本パソコンを、オートネゴシエーションが可能なネットワーク機器と接続しているときこれにより問題がある場合は、「■ LAN デバイスの節電機能の設定を変更する」（→P.61）をご覧ください。
(本パソコンの節電設定は、ご購入時は有効に設定されています。)

■ LAN デバイスの節電機能の設定を変更する

LAN デバイスの節電機能の設定を変更するには、次の操作を行います。

- 1 管理者アカウントでサインインします。
- 2 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.7）を表示します。
- 3 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。
- 4 画面左側のメニューで「デバイス マネージャー」をクリックします。
「デバイス マネージャー」が表示されます。
- 5 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。
- 6 次のデバイスをダブルクリックします。
Intel(R) Ethernet Connection I219-LM
- 7 「詳細設定」タブをクリックします。
- 8 「プロパティ」で「システム無動作時の節電機能」をクリックし、「値」で「有効（オン）」または「無効（オフ）」を選択します。
- 9 「OK」をクリックします。

2.9.2 無線LAN

対象 無線LAN搭載機種

無線LANについては、『無線LANご利用ガイド』をご覧ください。
無線LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。
また、無線LANの仕様については、「5.4 無線LAN」（→P.120）をご覧ください。

■ 無線LANの種類を確認する

搭載されている無線LANの種類を確認するには、次の操作を行います。

- 1 「コントロールパネル」ウィンドウ（→P.7）を表示します。
- 2 「システムとセキュリティ」→「システム」の順にクリックします。
- 3 画面左側のメニューで「デバイス マネージャー」をクリックします。
「デバイス マネージャー」が表示されます。
- 4 「ネットワークアダプター」をダブルクリックします。
本パソコンに搭載されている無線LANの種類が表示されます。

2.9.3 無線WAN

対象 無線WANモデル

nanoSIMカードを取り付けることにより、高速パケット通信が可能になります。
nanoSIMカードを取り付ける方法については、「3.4 nanoSIMカード」（→P.90）をご覧ください。
無線WANについては、『内蔵無線WANをお使いになる方へ』をご覧ください。

2.9.4 Bluetoothワイヤレステクノロジー

対象 Bluetoothワイヤレステクノロジー搭載機種

Bluetoothワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやワイヤレスキーボード、携帯電話などの周辺機器や他のBluetoothワイヤレステクノロジー搭載のパソコンなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。

Bluetoothワイヤレステクノロジーについては、『Bluetoothワイヤレステクノロジーご利用ガイド』をご覧ください。

また、Bluetoothワイヤレステクノロジーのバージョンについては、「5.1 本体仕様」（→P.102）をご覧ください。

2.9.5 無線通信機能の電波を発信する／停止する

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、あらかじめ無線通信機能の電波を停止してください。

電波の発信／停止は次の方法で変更できます。

■ キーボード

パソコンに搭載されている、すべての無線通信機能の電波を発信／停止します。

1 【Fn】 + 【F5】 キーを押します。

【Fn】 + 【F5】 キーを押すたびに、電波の発信／停止が切り替わります。

POINT

- ▶ F Lockランプ（→P.18）が点灯している場合はF Lock機能（→P.16）が有効になっているので、【Fn】キーを押さずに【F5】キーを押すだけで電波の発信／停止が切り替わります。

重要

- ▶ 無線デバイスは、個別に電波を発信／停止することもできます。電波の発信／停止の状態は、「■ Windowsの機能」（→P.63）の手順で表示される画面で確認できます。
- ▶ 電波を「停止」に切り替えた場合、すべての無線デバイスが「停止」になりますが、「発信」に切り替えた場合は、電波を「停止」する直前に「発信」の状態だったデバイスのみが「発信」となります。

■ Windowsの機能

Windowsの機能で、無線通信機能の電波の発信／停止を切り替えることもできます。

1 「スタート」ボタン→（設定）→「ネットワークとインターネット」の順にクリックします。

2 画面左側のメニューで「機内モード」をクリックします。

POINT

- ▶ 機内モード
 - ・ 機内モードとは、パソコンに搭載されている無線通信機能の電波を停止する機能です。機内モードを「オン」にすると電波が停止します。
 - ・ 【Fn】 + 【F5】 キーを押すたびに機内モードのオン／オフを切り替えます。

3 画面右側の「機内モード」または「ワイヤレスデバイス」でそれぞれの設定を切り替えます。


「機内モード」では無線通信の電波をまとめて発信／停止します。特定の電波の発信／停止を設定する場合は「ワイヤレスデバイス」で設定します。

	機内モード	ワイヤレスデバイス
「オン」に設定	すべての無線通信機能を停止	電波を発信
「オフ」に設定	すべての無線通信機能を発信	電波を停止

重要

- ▶ 電波を「停止」に切り替えた場合、すべての無線デバイスが「停止」になりますが、「発信」に切り替えた場合は、電波を「停止」する直前に「発信」の状態だったデバイスのみが「発信」となります。

POINT

- ▶ Bluetoothワイヤレステクノロジーは、次の操作でも設定を切り替えることができます。
 1. 「スタート」ボタン →  (設定) → 「デバイス」の順にクリックします。
 2. 画面左側のメニューで「Bluetoothとその他のデバイス」をクリックします。
 3. 画面右側のメニューでBluetoothの設定を切り替えます。
 - ・「オン」：電波を発信する
 - ・「オフ」：電波を停止する

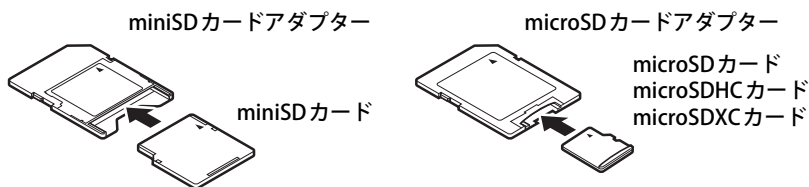
2.10 ダイレクト・メモリースロット

ここでは、ダイレクト・メモリースロットに、SDメモリーカードをセットしたり取り出したりする方法について説明しています。

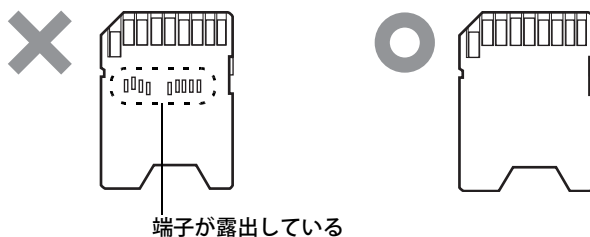
メモリーカードの取り扱いについては、お使いのメモリーカードのマニュアルをご覧ください。メモリーカードを周辺機器で使用する場合は、お使いの周辺機器のマニュアルもご覧ください。また、ダイレクト・メモリースロットの仕様については、「5.1 本体仕様」(→P.102)をご覧ください。

2.10.1 注意事項

- メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリーカードを取り扱う前は、一度アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。
- miniSDカード、microSDカード、microSDHCカード、microSDXCカードをお使いになるには、アダプターが必要です。そのまま挿入するとメモリーカードが取り出せなくなります。



- アダプターが必要なメモリーカードは、必ずアダプターに差し込んだ状態でセットしたり取り出したりしてください。アダプターだけをダイレクト・メモリースロットに残すと、故障の原因となります。
- 裏面の中央部に端子が露出しているタイプのminiSDカードアダプターは使用できません。故障の原因となります。



2.10.2 使用できるメモリーカード

すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

メモリーカード		対応
SDメモリーカード ^{注1}	SDメモリーカード	○
	miniSDカード ^{注2}	○
	microSDカード ^{注2}	○
	SDHCカード	○
	microSDHCカード ^{注2}	○
	SDXCカード	○
	microSDXCカード ^{注2}	○
	SDIOカード	×

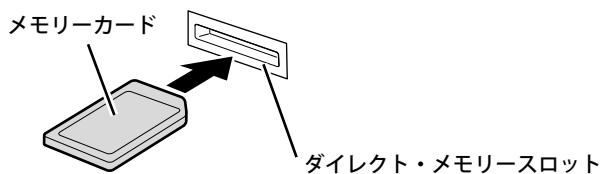
注1：・著作権保護機能には対応していません。

・マルチメディアカード（MMC）、セキュアマルチメディアカードには対応していません。

注2：アダプターが必要です。

2.10.3 メモリーカードをセットする


- 1 メモリーカードのラベル面を上、端子側を奥にして「カチッ」と音がするまでダイレクト・メモリースロット（→P.11）に差し込みます。



POINT

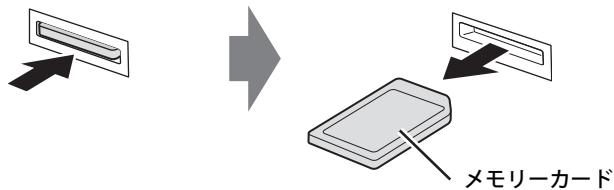
- ▶ メッセージ（画面右下）が表示された場合は、そのメッセージをクリックし、必要に応じて動作を選択するか、メッセージを閉じてください。

2.10.4 メモリーカードを取り出す

- 1 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン () をクリックします。
- 2 取り外すメモリーカードをクリックし、表示されるメッセージに従います。
- 3 メモリーカードを一度押し、少し出てきたメモリーカードを引き抜きます。

重要

- ▶ メモリーカードを強く押さないでください。指を離したときメモリーカードが飛び出し、紛失したり衝撃で破損したりするおそれがあります。また、ダイレクト・メモリスロットを人に向けたり、顔を近づけたりしないでください。メモリーカードが飛び出すと、けがの原因となります。



2.11 暗号化機能付フラッシュメモリディスク

「暗号化機能付フラッシュメモリディスク」は、OSやプログラムを含むフラッシュメモリディスク上の全データについて、書き込み時には自動的に暗号化し、読み出し時には自動的に復号します。そのため、暗号化を意識せずにセキュリティを確保できます。

また、BIOSセットアップでハードディスクパスワードを設定することにより、フラッシュメモリディスクへのアクセスはパスワードで管理されます。本パソコンからフラッシュメモリディスクを抜き取り、他のパソコンに接続してデータを読み取ろうとした場合にも、パスワードの入力が必要になるため不正な使用を防ぐことができます。

重要

- ▶ ハードディスクパスワードを設定していない場合はフラッシュメモリディスクへの不正なアクセスを防ぐことができません。必ずハードディスクパスワードを設定してください。ハードディスクパスワードの設定方法は『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「BIOSのパスワード機能を使う」をご覧ください。


2.12 セキュリティチップ（TPM）

セキュリティチップ（TPM）は、ドライブを暗号化したときの暗号鍵などの重要なデータを格納・管理するための特別なICチップです。暗号鍵などをフラッシュメモリディスクに残さないため、フラッシュメモリディスクが盗まれても暗号を解析できません。

2.13 電源オフUSB充電機能

本パソコンには電源オフ時のUSB充電に対応したコネクタを搭載しています。電源オフUSB充電機能とは、パソコンが電源オフ状態や省電力状態の場合でも、USB充電に対応した周辺機器を充電することができる機能です。

2.13.1 注意事項

-  という刻印のあるUSB 3.2 (Gen1) Type-Aコネクタ (→P.14) のみ電源オフUSB充電機能に対応しています。
- ご購入時は無効に設定されています。
- 電源オフUSB充電機能を有効にした場合、USBメモリなどの充電機能を持たないUSB周辺機器は、電源オフUSB充電機能対応のUSBコネクタに接続しないでください。
- USBキーボードまたはUSBマウスは、電源オフUSB充電機能の有効/無効にかかわらず、電源オフUSB充電機能対応のUSBコネクタには接続できません。
- USB対応周辺機器によっては、電源オフUSB充電機能を使用できない場合があります。
- 電源ボタンを10秒以上押して本パソコンの電源を切った場合は、電源オフUSB充電機能は動作しません。
- 電源オフUSB充電機能が有効に設定されている場合、本機能に対応したUSBコネクタに接続したUSB対応周辺機器を操作して省電力状態からレジュームすることはできません。
- 電源オフUSB充電機能が有効に設定されている場合、省電力状態からレジュームしたときに、本機能に対応したUSBコネクタに接続したUSB対応周辺機器で次の現象が発生することがあります。これらの現象が発生してもUSB対応周辺機器本体および記録データが破損することはありません。
 - ・デバイス認識のポップアップウィンドウが表示される
 - ・「自動再生」ウィンドウが表示される
 - ・接続したUSB対応周辺機器と連携しているアプリが起動する
 - ・接続したUSB対応周辺機器のドライブ名が変わる

2.13.2 電源オフUSB充電機能の設定を変更する

電源オフUSB充電機能の設定変更はBIOSセットアップで行います。設定変更の方法については、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「電源オフUSB充電機能の設定を変更する」をご覧ください。

2.14 USB Type-C 充電・給電ユーティリティ

本パソコンは、充電と給電を切り替えられるUSB Type-Cコネクタを搭載しています。それぞれのUSB Type-Cコネクタの充電／給電の切り替えは、USB Type-C 充電・給電ユーティリティで行います。


2.14.1 注意事項

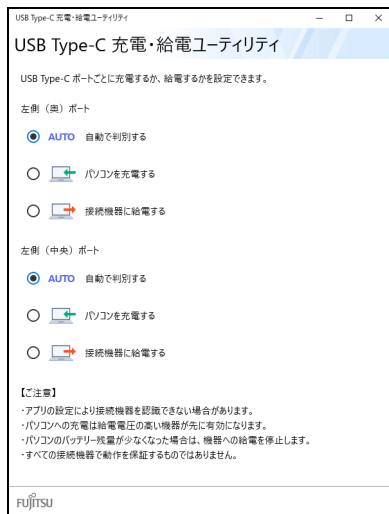
- 次の場合は、本アプリの設定は有効になりません。
 - ・ BIOS セットアップメニューの「詳細」メニュー→「USB Type-C 充電設定」→「パソコン電源オフ時の動作」を「充電しない」に設定している場合は、パソコンが休止状態および電源オフ状態での充電は行われません。

POINT

- ▶ BIOS セットアップメニューの設定項目については、『BIOS セットアップメニュー一覧』をご覧ください。

2.14.2 USB Type-C 充電・給電ユーティリティの設定を変更する

- 1 「スタート」ボタン→（設定）→「Extras」→「USB Type-C 充電・給電ユーティリティ」の順にクリックします。
「USB Type-C 充電・給電ユーティリティ」が表示されます。





（機種により表示されるポートが異なります）

- 2 充電または給電を設定するコネクタの項目を選択します。
- 3 画面右上の「閉じる」をクリックして、画面を閉じます。

■ パソコンの充電／給電の動作

ご購入時は「AUTO」に設定されています。

本動作は、すべての対応機器の動作を保証するものではありません。

接続機器	「USB Type-C 充電・給電ユーティリティ」の設定項目		
	AUTO (自動で判別する)	 (パソコンを充電する)	 (接続機器に給電する)
Type-C ACアダプタ (給電のみデバイス注1)	パソコンを充電する	パソコンを充電する	—
充電／給電対応 デバイス注2注3	パソコンの状態が変わる	パソコンを充電する	接続機器に給電する
USB Type-C ポトリプリケータ	・ パソコンを充電する ・ 接続機器として認識する	・ パソコンを充電する ・ 接続機器として認識する	・ 接続機器として認識する ・ 接続機器への給電は対象外
USBデバイス注4	接続機器として認識する	—	接続機器として認識する

注1： ・ USB Power Delivery対応で7.5W（5V/1.5A）以上を供給可能な機器

- ・ パソコンを使用しながらパソコンを充電する場合は、USB Power Delivery対応で45W（20V/2.25A）以上を供給可能な機器が必要となります。

注2： ・ モバイルバッテリー、パソコン、スマートフォンなど

注3： ・ USB Power Delivery対応機器のみお使いいただけます。

- USB Type-CコネクタがThunderbolt™ 4の場合
パソコンを充電：7.5W（5V/1.5A）以上供給可能
接続機器に給電：最大5V/3.0A
- USB Type-CコネクタがUSB 3.2（Gen2）の場合
パソコンを充電：7.5W（5V/1.5A）以上供給可能
接続機器に給電：最大5V/1.5A

- ・ パソコンを使用しながらパソコンを充電する場合は、USB Power Delivery対応で45W（20V/2.25A）以上を供給可能な機器が必要となります。

- ・ 次のような場合は、パソコンを充電していてもパソコンのバッテリーが減ることがあります。

- パソコンが動作している（高負荷処理を行っているなど）
- 接続機器への給電電力が大きい（消費電力の大きな機器を複数接続しているなど）

注4： ・ USBメモリ、Webカメラ、ディスプレイなど

- ・ USBデバイスを使用する場合は、「AUTO」を選択して使用することをお勧めします。

重要

- ▶ 2つのUSB Type-Cコネクタに同時にデバイスを接続し、それぞれのデバイスからパソコンを充電する場合
 - ・ 電圧の高いデバイスから充電を行います。
 - ・ 両方のデバイスの電圧が同じ場合は、先にパソコンに接続したデバイスからの充電が継続されます。
- ▶ 接続したデバイスからパソコンへ充電が行われずに一定時間が経過すると、デバイスがスリープ状態になることがあります。
この場合は充電が開始されないため、デバイスを一度パソコンから外して接続し直すと充電が開始されます。

2.15 Windows Hello

対象 顔認証対応Webカメラ／指紋センサー搭載機種

Windows 10には、顔や指紋を認識してサインインできるWindows Helloという機能が搭載されています。Windows Helloを使うと、サインイン時にパスワードやPINを入力する必要がなくなります。

2.15.1 Windows Helloを使って顔認識でサインインする


カメラの位置は「1章 各部名称」（→P.10）をご覧ください。

■ Windows Helloの顔認識機能をお使いになるうえでの注意

- Windows Helloの顔認識機能は完全な本人認識・照合を保証するものではありません。
- Windows Helloをお使いになるには、PINを設定しておく必要があります。
- カメラによる顔認識を設定している場合でも、パスワードやPINの入力でサインインすることができます。
また、顔認証でサインインできない場合も、同様にパスワードやPINの入力でサインインしてください。
- Windows Helloで登録した顔情報は、パソコンにのみ保存されインターネット上にアップロードされることはありません。
- 顔の登録および顔認識時に適切な顔の位置は、パソコンの正面でパソコンからの距離が約30cmから75cmです。
カメラが顔を認識できるように、必要に応じて液晶ディスプレイの角度などを調整してください。
- Windows Helloの顔認識機能は赤外線を使用しています。次のような環境では、顔認証が正しく検出できないことがあります。
 - ・パソコンの顔認証対応Webカメラや顔に直接日差しが当たる場所
 - ・晴れた日の屋外や窓際など正しく検出するために上記の場所での使用を避け、直接日差しが当たらないようにカーテンなどで日差しを遮ってください。
また、窓際で使用したり、窓に向かってパソコンを設置したりすることは避けてください。
- 赤外線を含む電球（白熱電球など）を使用している場合は、パソコンの顔認証対応Webカメラや顔に電球の光が当たらないようにしてください。
- パソコンの顔認証対応Webカメラの発光部を長時間見つめないでください。
- 顔の登録および顔認識時は、Webカメラ状態表示LEDが青く点灯します。
- 本パソコンに搭載されているカメラは顔認証に最適化されたカメラです。
カメラの視野に人の顔がある場合、人の顔に対して優先的に露出補正を行います。
そのため、周囲の明るさと人の顔の明るさの差が大きい場合、人の顔の露出は適正になりますが、周囲の露出は適正でない状態で撮影されることがあります。

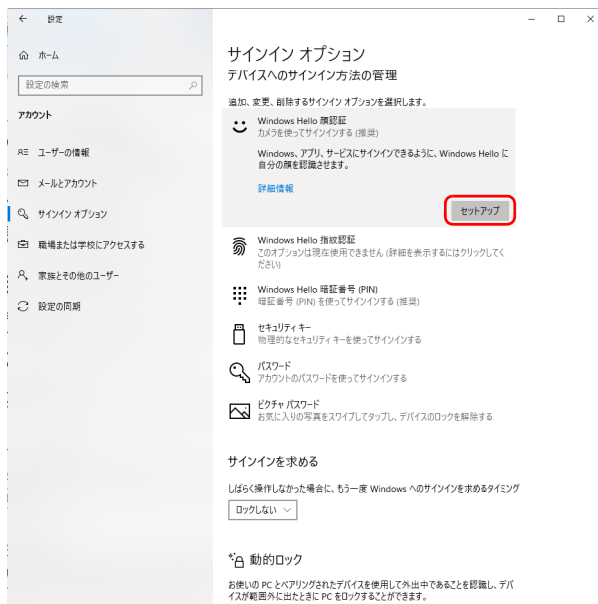
■ 顔を登録する

Windows Helloの顔認識機能をお使いになるときは、次の設定を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン→（設定）→「アカウント」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「サインインオプション」をクリックします。
- 3 画面右側の「Windows Hello 顔認識」をクリックし、「セットアップ」をクリックします。

POINT

- ▶ PINを設定していない場合は、「Windows Hello 暗証番号（PIN）」の「追加」をクリックし、先にPINの設定を行ってください。

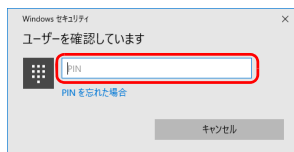


「Windows Helloセットアップ」ウィンドウが表示されます。

4 「開始する」をクリックします。



5 PINを入力します。



6 画面の指示に従って、顔を登録します。



- 7 顔の登録が完了したら、「閉じる」をクリックします。**
必要に応じて「精度を高める」をクリックし、顔を登録し直します。



POINT

- ▶ 「閉じる」をクリックした後も精度を高めることができます。手順3の「サインインオプション」の画面で「Windows Hello 顔認識」の「認識精度を高める」をクリックし、再度顔認識を行ってください。

■ 顔認識でサインインできるか確認する

- 1 「スタート」ボタン → (アカウント名) → 「ロック」の順にクリックし、ロック画面を表示します。
- 2 顔認証対応Webカメラに顔を認識させて、サインインできるか確認します。

POINT

- ▶ サインインできなかった場合
画面の指示に従って、PINまたはパスワードを入力してサインインし、顔の登録をやり直してください。

2.15.2 Windows Hello を使って指紋認証でサインインする

指紋センサーの位置は「1章 各部名称」（→P.10）をご覧ください。

■ Windows Hello の指紋認証機能をお使いになるうえでの注意

- Windows Hello の指紋認証機能は完全な本人認識・照合を保証するものではありません。
- Windows Hello をお使いになるには、PIN を設定しておく必要があります。
- 指紋認証を設定している場合でも、パスワードやPIN 入力によるロック解除は可能です。
- Windows Hello で登録した指紋情報は、パソコンにのみ保存され、インターネット上にアップロードされることはありません。
- 修理などにより、指紋認証機能が使用できなくなる場合があります。
修理後に指紋認証機能が使用できなくなった場合は、指紋を登録し直してください。

□ 指紋センサーに関するご注意

- 次のような場合は、故障および破損の原因となることがあります。
 - ・ 指紋センサー表面をひっかいたり、先のとがったものでついたりした場合
 - ・ 指紋センサー表面を爪や硬いもので強く擦り、センサー表面にキズが入った場合
 - ・ 泥などで汚れた手で指紋センサーに触れ、細かい異物などでセンサー表面にキズが入ったり、表面が汚れたりした場合
 - ・ 指紋センサーのセンサー部にシールを貼ったり、インクなどで塗りつぶしたりした場合
- 指紋センサーに指を置く前に金属に手を触れるなどして、静電気を取り除いてください。静電気が故障の原因となる場合があります。冬期など乾燥する時期は特にご注意ください。

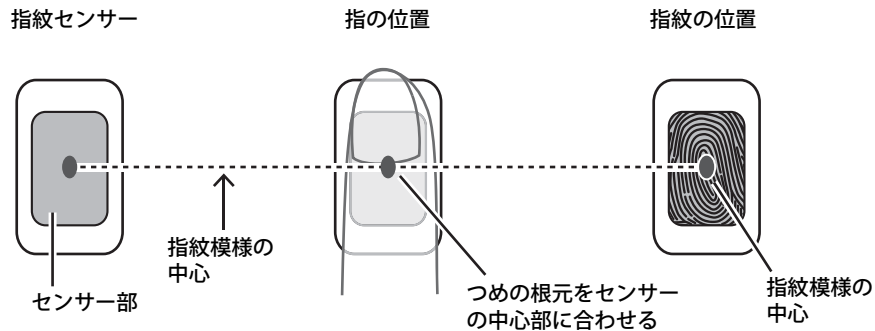
□ 指紋登録時、照合時のご注意

- 本機能は、画像に含まれる指紋の特徴をもとに照合を行うものです。このため、お客様によっては指紋の特徴情報が少なく、登録操作ができない場合があります。
- 指の状態が次のような場合は、指紋の登録や指紋認証が困難になることがあります。なお、指を強く押し当てる、手を洗う、手を拭く、認証する指を変える、手荒れや乾いている場合はクリームを塗るなど、お客様の指の状態に合わせて対処することで、状況が改善されることがあります。
 - ・ お風呂上がりなどで指がふやけている場合
 - ・ 指に汗や脂が多く、指紋の間が埋まっている場合
 - ・ 手が荒れたり、指に損傷（切傷、ただれなど）を負っている場合
 - ・ 手が極端に乾燥していたり、乾燥肌の場合
 - ・ 指が泥や油などで汚れている場合
 - ・ 太ったり、やせたりして指紋が変化した場合
 - ・ 磨耗して指紋が薄くなった場合
 - ・ 指紋登録時に比べ、指紋認証時の指の表面状態が極端に異なる場合
 - ・ 濡れたり、汗をかいたりしている場合
 - ・ 指が小さい場合
- センサー表面が濡れていたり結露していたりすると、誤作動の原因となります。柔らかい布で水分を取り除いてからご使用ください。
- 各指で指紋が異なりますので、必ず登録を行った指で認証の操作を行ってください。
- 指紋認証が頻繁に失敗する場合は、登録した指紋を削除して、指紋の登録をやり直してください。

□ 指紋の読み取り方

● 指の位置

つめの根元を指紋センサーの中心部に合わせてください。
指紋模様の中心がセンサーの中心部に当たりやすくなります。

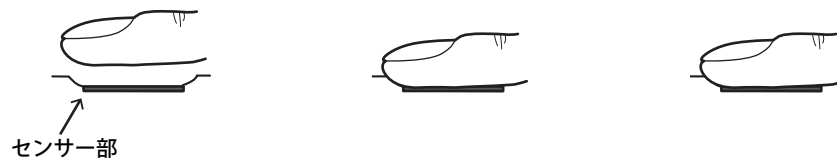


指紋模様の中心の位置には個人差があります。登録・認証がされにくい場合、指紋模様の中心がセンサーの中心部に当たるよう、指の位置を調整してください。

● タッチ方法

指の位置を合わせて、指の腹をセンサー部に接触させて少し静止（2～3秒）してください。

1. 指の位置を合わせる
2. 指の腹をセンサー部に接触
3. 少し静止

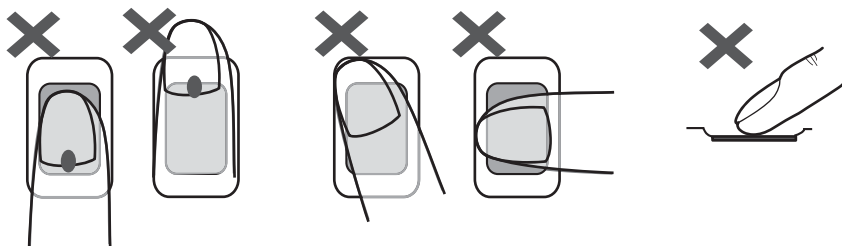


● 指紋が読み取りにくい例

つめの根元の位置がずれている


指が傾いている

指が立っている



■ 指紋を登録する

Windows Helloの指紋認識機能をお使いになるときは、次の設定を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン→（設定）→「アカウント」の順にクリックします。
- 2 画面左側のメニューで「サインインオプション」をクリックします。



POINT

- ▶ PINを設定していない場合は、「PIN」の「追加」をクリックし、先にPINの設定を行ってください。

- 3 画面右側の「Windows Hello 指紋認証」をクリックし、「セットアップ」をクリックします。

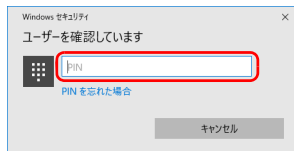


「Windows Helloセットアップ」ウィンドウが表示されます。

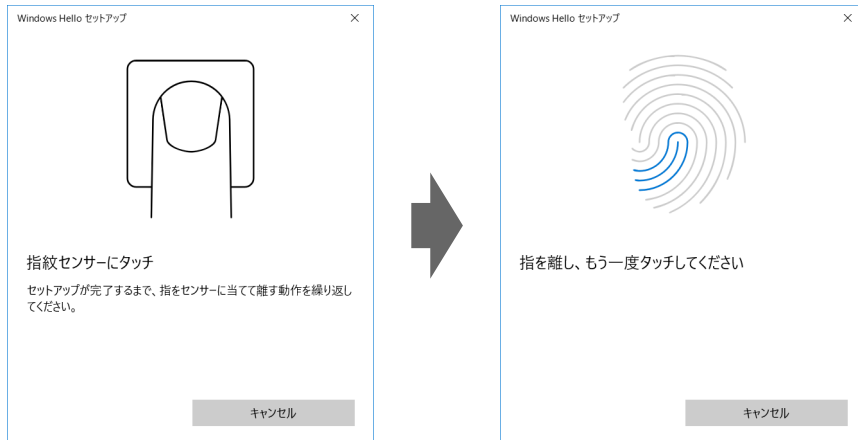
4 「開始する」をクリックします。



5 PINを入力します。

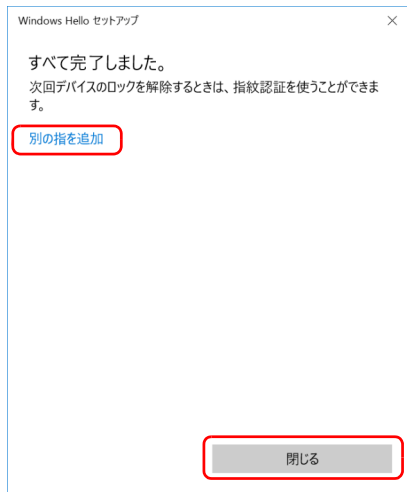


6 画面の指示に従って、指紋を登録します。



数回タッチします。

- 7 指紋の登録が完了したら、「閉じる」をクリックします。**
必要に応じて「別の指を追加」をクリックします。



■ 指紋認証でサインインできるか確認する

- 1 「スタート」ボタン → (アカウント名) → 「ロック」の順にクリックし、ロック画面を表示します。
- 2 指紋センサーに指紋を認識させて、サインインできるか確認します。

POINT

- ▶ サインインできなかった場合
画面の指示に従って、PINまたはパスワードを入力してサインインし、指紋の登録をやり直してください。

■ 登録・認証がうまくいかないときは

□ 登録・認証しにくい指の状態と対処方法

次の対処を行ってください。

指の状態	対処方法
手が濡れたり汗をかいている	・ 指を拭いてください。 ・ センサー面に指を置いた跡が見える場合はセンサー面も拭いてください。 （改善されない場合は、指紋を登録し直してください。）
手が荒れたり乾燥している	・ 指に息を吹きかけてください。 ・ ウェットティッシュなどで指紋部分を軽く湿らせてください。 ・ 指を強めに長く押し当ててください。
指に傷がある 磨耗して指紋が薄い	・ 登録する指を変えてください。

□ 登録や認証が困難なケース

- お風呂上がりなどで指がふやけている場合
- 指が小さい場合（小学生以下など小柄な方）

□ 指紋センサー面の汚れ

指紋センサー面が汚れていると指紋を正確に読み取れません。

指紋の登録・認証失敗が頻発するときは、乾いた柔らかい布（メガネ拭きなど）で軽く拭いてください。

指紋の登録時には、短時間に連続して指紋の取得を行うため指紋の跡が残りやすく、1回の指紋取得ごとにセンサー面の汚れの拭き取りが必要になる場合があります。

3

第3章

周辺機器

周辺機器の取り付け方法や注意事項を説明しています。

3.1 周辺機器を取り付ける前に	84
3.2 メモリ	85
3.3 ポートリプリケータ	88
3.4 nanoSIMカード	90
3.5 コネクタの接続/取り外し	93

3.1 周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことを説明しています。必ずお読みください。

3.1.1 注意事項

- 本パソコンに対応している弊社純正品をお使いください。詳しくは、富士通製品情報ページ内にある「システム構成図」（https://jp.fujitsu.com/platform/pc/product/catalog_syskou/）をご覧ください。
- お使いになる周辺機器のマニュアルもあわせてご覧ください。
- 電源を切った直後は、パソコン本体内部が熱くなっています。電源を切り、電源ケーブルを抜いた後、十分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となります。
- 操作に必要な箇所以外は触らないでください。故障の原因となります。
- 周辺機器の取り付け／取り外しは、Windowsのセットアップが完了してから行ってください。
- お使いになる周辺機器によっては、取り付け後にドライバーなどのインストールや設定が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください。一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われなことがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- 一般的には周辺機器の電源を入れてからパソコン本体の電源を入れ、パソコン本体の電源を切ってから周辺機器の電源を切ります。ただし、周辺機器によっては逆の順序が必要な場合があります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.2 メモリ

ここでは、本パソコンにメモリを取り付ける方法について説明しています。
必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.84）をお読みになってから作業をしてください。

3.2.1 注意事項

- メモリを取り付ける、または取り外すときは、必ずパソコン本体の電源を切り、電源ケーブルを抜いてください。電源の切り方については、「2.7.2 電源を切る」（→P.44）をご覧ください。また、バッテリーパックを取り外してください。
- メモリは静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- メモリはふちを持ち、端子やICなどそれ以外の箇所に触れないようにしてください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。故障や接触不良の原因となります。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となります。
- 取り外したネジなどをパソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となります。
- プラスドライバー（1番）を用意してください。
- メモリ増設後、本パソコンの起動に時間がかかる場合がありますが、「FUJITSU」ロゴが表示されるまでそのままお待ちください。

3.2.2 取り付けられるメモリ

メモリを増設するときは、次の表でメモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認し、正しく取り付けてください。この表の組み合わせ以外で、メモリを取り付けしないでください。

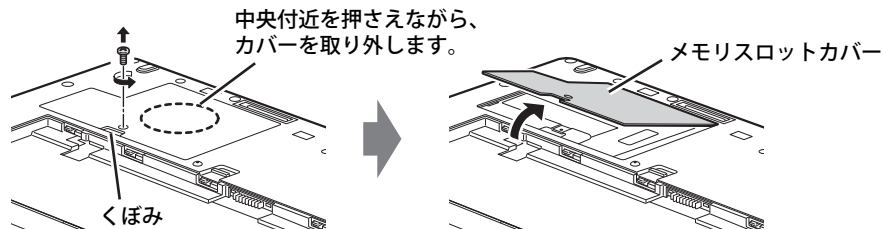
総容量	オンボード	メモリスロット
4GB	4GB	—
8GB	4GB	4GB
	8GB	—
12GB	4GB	8GB
	8GB	4GB
16GB	8GB	8GB
20GB	4GB	16GB
24GB	8GB	16GB
36GB	4GB	32GB
40GB	8GB	32GB

3.2.3 メモリを取り付ける

1 「2.8.4 バッテリーを交換する」（→P.56）をご覧ください、バッテリーを取り外します。

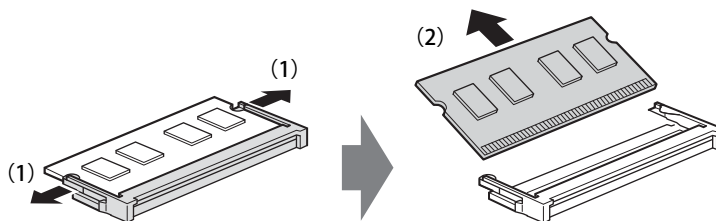
2 メモリスロットカバーを取り外します。

メモリスロットカバーのネジを外します。くぼみに指をかけ、メモリスロットカバー中央付近を押さえながら取り外します。



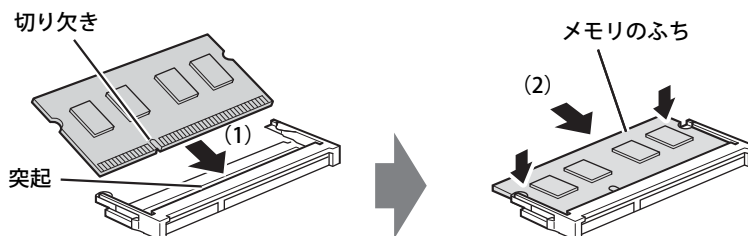
3 メモリを取り付けるメモリスロットにメモリが取り付けられている場合は取り外します。

1. メモリスロットの両側のフックを外側に開いてメモリの固定を解除します。
2. メモリのふちを持って斜め上にまっすぐ引き抜きます。



4 メモリを取り付けます。

1. メモリの切り欠き部とメモリスロットの突起を合わせ、斜め上から奥まで差し込みます。
2. メモリのふちを押しながらメモリを下に倒します。メモリスロット両側のフックがメモリを固定していることを確認してください。

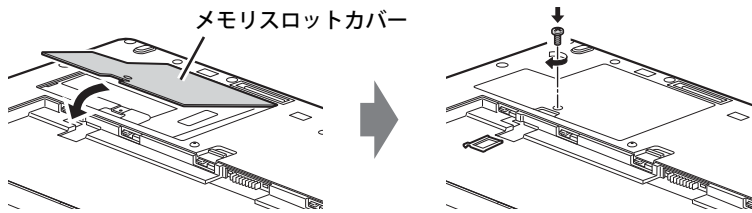


(突起の位置は機種により異なります)

重要

- ▶ メモリがうまく取り付けられないときは、無理に取り付けず、いったんメモリを抜いてからもう一度メモリを取り付けてください。

- 5** メモリスロットカバーを取り付けます。
メモリスロットカバーを取り付け、ネジで固定します。



- 6** 「2.8.4 バッテリーを交換する」（→P.56）をご覧ください、バッテリーを取り付けます。

- 7** BIOSセットアップを起動して、メモリが正しく認識されていることを確認します。

『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「BIOSセットアップの操作のしかた」をご覧ください、「情報」メニューを表示してメモリ容量を確認してください。

重要

- ▶ メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときにエラーメッセージが表示されたり、画面に何も表示されなかったりすることがあります。その場合は電源ボタンを10秒以上押し、本パソコンの電源を切り、メモリを取り付け直してください。それでも本パソコンが起動しない場合は、故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

3.2.4 メモリを取り外す

メモリを取り外す場合も、取り付ける手順をご覧ください。

重要

- ▶ 取り外したメモリは、静電気防止袋に入れて大切に保管してください。

3.3 ポートリプリケータ

対象 ポートリプリケータ使用時

パソコン本体にポートリプリケータを取り付けると、ポートリプリケータに搭載されているコネクタを使用できるようになります。

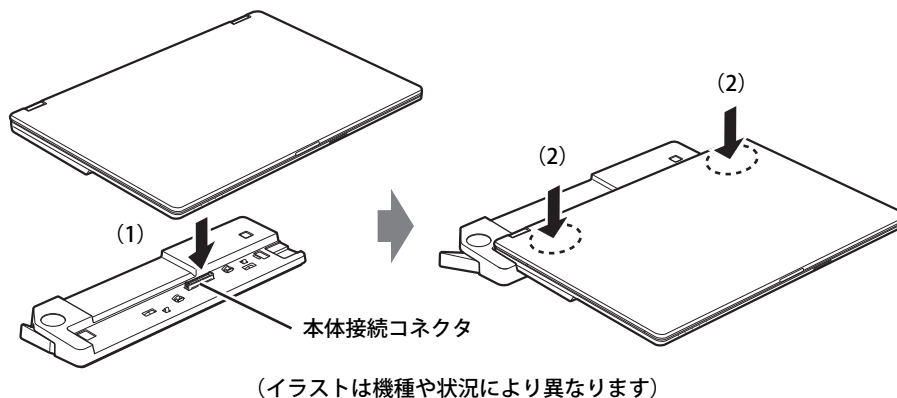
ここでは、ポートリプリケータの取り付け／取り外し方法について説明しています。必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.84）をお読みになってから作業をしてください。

3.3.1 注意事項

- ポートリプリケータをお使いになる前に、必ず最新のドライバーを適用してください。最新のドライバーは、富士通製品情報ページ内にある「ドライバダウンロード」（https://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html）よりダウンロードしてください。
- ポートリプリケータを取り付けた状態では、本パソコンを持ち運ばないでください。パソコン本体およびポートリプリケータのコネクタの破損の原因となります。
- ポートリプリケータを取り付けた状態では、パソコン本体の次のコネクタは使用できません。
 - ・ LANコネクタ
- ポートリプリケータをお使いになる場合は、必ずポートリプリケータのDC-INコネクタ（→P.19）に、ポートリプリケータ専用のACアダプタを接続してください。

3.3.2 ポートリプリケータを取り付ける

- 1 パソコン本体のコネクタから、周辺機器を取り外します（→P.93）。
- 2 (1) ポートリプリケータとパソコンの左奥を合わせて、パソコン本体を水平に下ろし、(2) 矢印の部分を軽く押さえて、ポートリプリケータにしっかりと取り付けます。本体接続コネクタを傷付けないように注意してください。

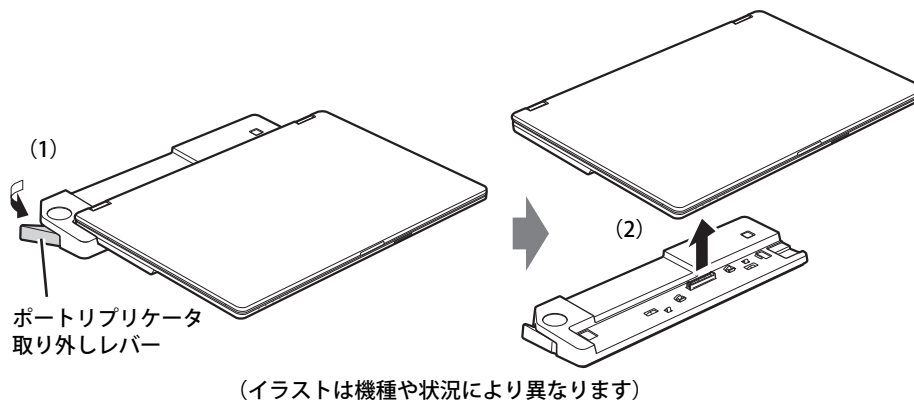


重要

- ▶ パソコン本体上面を強く押さえると、液晶ディスプレイが割れるおそれがあります。ご注意ください。

3.3.3 ポートリプリケータを取り外す

- 1 ポートリプリケータのコネクタに接続されている周辺機器の電源を切ります。
- 2 パソコン本体をポートリプリケータから取り外します。
 - (1) ポートリプリケータ取り外しレバーを起こし、
 - (2) パソコンを持ち上げます。



3.4 nanoSIMカード

対象 無線WANモデル

本パソコンのnanoSIMカードスロットにnanoSIMカードをセットすると、無線WANによる通信ができるようになります。

ここでは、nanoSIMカードをセットしたり取り出したりする方法について説明しています。無線WANの使い方については、『内蔵無線WANをお使いになる方へ』をご覧ください。必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.84）をお読みになってから作業をしてください。

3.4.1 注意事項

- nanoSIMカードの表面にテープなどを貼らないでください。故障の原因となります。

重要

- ▶ nanoSIMカードをセットしたり取り出したりするときは、必ずパソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。電源の切り方については、「2.7.2 電源を切る」（→P.44）をご覧ください。

3.4.2 nanoSIMカードをセットする

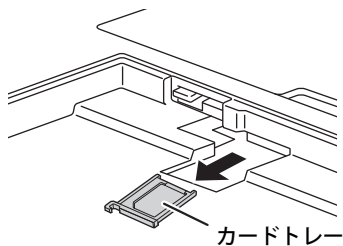
重要

- ▶ カードトレイの取り扱いについては、充分にご注意ください。
 - ・ nanoSIMカードは、必ずカードトレイにセットして挿入してください。nanoSIMカードを直接パソコン本体に差し込んでも認識できません。また、nanoSIMカードが取り外せなくなるなど、パソコン本体の故障の原因となります。
 - ・ 変形したカードトレイを挿入すると、通常のnanoSIMカードを認識できない場合があります。
 - ・ カードトレイは紛失しないように注意してください。

1 「2.8.4 バッテリーを交換する」(→P.56) をご覧になり、バッテリーを取り外します。

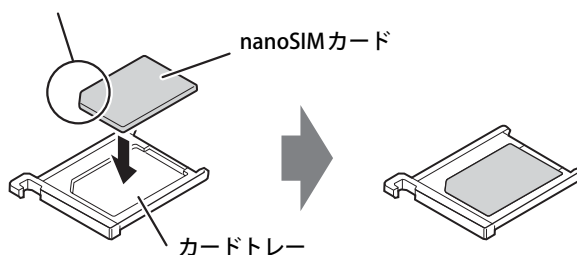
2 カードトレイのツメをつかみカードトレイを引き出します。

カードトレイのツメがつかみづらいことがあります。カードトレイのツメ部分につめや先の細い棒などをひっかけ、引き出してください。

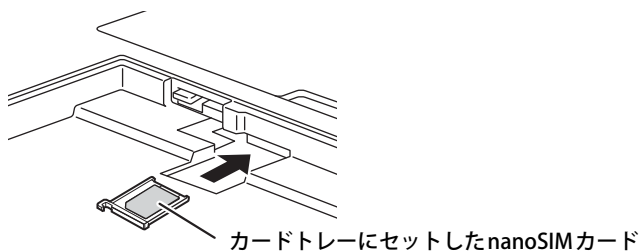


3 nanoSIMカードをカードトレイにセットします。

角が欠けている部分



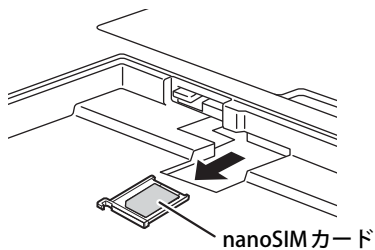
4 カードトレイをnanoSIMカードスロットに差し込みます。



5 「2.8.4 バッテリーを交換する」(→P.56) をご覧になり、バッテリーを取り付けます。

3.4.3 nanoSIMカードを取り出す

- 1 「2.8.4 バッテリーを交換する」（→P.56）をご覧ください、バッテリーを取り外します。
- 2 カードトレイのツメをつかみカードトレイを引き出し、nanoSIMカードを取り出します。
カードトレイのツメがつかみづらいことがあります。カードトレイのツメ部分につめや先の細い棒などをひっかけ、引き出してください。



重要

- ▶ 取り外したnanoSIMカードは大切に保管してください。

- 3 カードトレイをnanoSIMカードスロットに差し込みます。
- 4 「2.8.4 バッテリーを交換する」（→P.56）をご覧ください、バッテリーを取り付けます。

3.5 コネクタの接続／取り外し

ここでは、パソコン本体やポートリプリケータに周辺機器を接続したり、取り外したりする一般的な方法について説明しています。

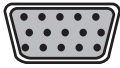
接続する周辺機器やケーブルのマニュアルもあわせてご覧ください。また、それぞれのコネクタの仕様については、「5.1 本体仕様」（→P.102）をご覧ください。

必ず「3.1 周辺機器を取り付ける前に」（→P.84）をお読みになってから作業をしてください。

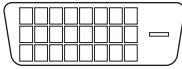
3.5.1 注意事項

- ご購入時の構成によっては、記載されているコネクタの一部は搭載されていません。
- 周辺機器のコネクタの形状によっては、接続できなかつたり、隣接するコネクタに接続された周辺機器と干渉したりする場合があります。周辺機器を接続する前に確認してください。
- 周辺機器によっては、接続したり取り外したりするときに、コネクタの仕様にかかわらずパソコン本体の電源を切る必要があるものがあります。詳しくは周辺機器のマニュアルをご覧ください。

3.5.2 ディスプレイコネクタ



アナログディスプレイコネクタ



DVI-Dコネクタ



HDMI出力端子

外部ディスプレイを接続します。パソコン本体の電源を切ってから接続してください。

重要

- ▶ ポートリプリケータを取り付けている場合は、ポートリプリケータのアナログディスプレイコネクタに接続してください。ポートリプリケータを取り付けている場合は、パソコン本体のアナログディスプレイコネクタは使用できなくなります。

■ 接続する

- 1 パソコン本体の電源を切ります。
- 2 ディスプレイコネクタに、ディスプレイのケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。
ポートリプリケータの次のコネクタをお使いの場合、コネクタのネジを締めてください。
 - ・アナログディスプレイコネクタ
 - ・DVI-Dコネクタ
- 3 ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れます。

■ 取り外す

重要

- ▶ マルチディスプレイ機能（→ P.32）をお使いになっている場合は、取り外すディスプレイに画面が表示されないようにしてからディスプレイを取り外してください。

□ アナログディスプレイコネクタ

- 1 パソコン本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。
ポートリプリケータの場合は、コネクタのネジを緩めてからケーブルを引き抜いてください。

□ DVI-D コネクタ

- 1 パソコン本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。
ポータリプリケータの場合は、コネクタのネジを緩めてからケーブルを引き抜いてください。

□ HDMI 出力端子

- 1 パソコン本体の電源を切ってから、ディスプレイの電源を切ります。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.5.3 USB コネクタ



USB Type-C コネクタ



USB Type-A コネクタ

USB 対応周辺機器を接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

■ 接続する

- 1 USB コネクタに、USB 対応周辺機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせまっすぐに差し込んでください。


POINT

- ▶ USB Type-C コネクタは、どちらの向きでも差し込むことができます。

■ 取り外す

重要

- ▶ USB 対応周辺機器によっては、取り外す前に「ハードウェアの安全な取り外し」の操作が必要になる場合があります。詳しくはお使いの USB 対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。

- 1 「ハードウェアの安全な取り外し」が必要な場合は次の操作を行います。
 1. 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコン () をクリックします。
 2. 取り外すデバイスをクリックし、表示されるメッセージに従ってデバイスを停止します。
- 2 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.5.4 オーディオ端子

オーディオ機器を接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。

重要

- ▶ マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子にオーディオ機器を接続したり取り外したりするときは、オーディオ機器の再生音量を小さくするか、再生を停止してください。

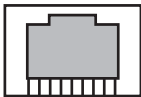
■ 接続する

- 1 マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子に、オーディオ機器のケーブルを接続します。
まっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

- 1 ケーブルのコネクタをまっすぐに引き抜きます。

3.5.5 LANコネクタ



LANケーブルを接続します。パソコン本体の電源を入れたまま接続、取り外しできます。
ただし、電源を入れたまま接続すると、LANが使用可能になるまで時間がかかる場合があります。
LEDの意味は、次のとおりです。



	左LED (Link/Act)	右LED (Speed)
1000MbpsでLinkを確立	緑色点灯 ^注	オレンジ点灯
100MbpsでLinkを確立	緑色点灯 ^注	オレンジ点灯
10MbpsでLinkを確立	緑色点灯 ^注	消灯

注：データ転送中は緑色点滅

重要

- ▶ 1000BASE-Tの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したネットワーク機器とエンハンスドカテゴリー5（カテゴリー5E）以上のLANケーブルを使用してください。
- ▶ ポートリプリケータを取り付けている場合は、ポートリプリケータのLANコネクタに接続してください。ポートリプリケータを取り付けている場合は、パソコン本体のLANコネクタは使用できなくなります。

■ 接続する

- 1 LANコネクタにネットワーク機器のケーブルを接続します。
コネクタの形を互いに合わせ、「カチッ」と音がするまでまっすぐに差し込んでください。

■ 取り外す

- 1 コネクタのツメを押さえながら、LANケーブルをまっすぐに引き抜きます。

4

第4章

お手入れ

快適にお使いいただくためのお手入れ方法を説明しています。

4.1 日常のお手入れ	99
-------------------	----

4.1 日常のお手入れ

パソコン本体や周辺機器を長時間使用していると、汚れが付いたり、ほこりがたまってしまいます。ここでは、日常のお手入れのしかたを説明しています。

4.1.1 パソコン本体、キーボード、マウス、ポトリプリケータの表面の汚れ

乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。

重要

- ▶ 拭き取るときは、内部に水が入らないよう充分に注意してください。
- ▶ シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは使わないでください。損傷する原因となります。

■ キーの間のほこり

キーボードのキーの間のほこりは、柔らかいブラシなどを使って取り除いてください。

重要

- ▶ ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となります。
- ▶ 掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
- ▶ 毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となります。

4.1.2 指紋センサー／手のひら静脈センサー

対象 指紋センサー／手のひら静脈センサー搭載機種

センサー部にほこりや汚れが付いたりすると、認証の精度が低下する可能性があります。センサーのほこりや汚れは、次の方法で取り除いてください。

- ほこりは乾いた柔らかい布で軽く払います。
- 汚れは乾いた柔らかい布で軽く拭き取ります。

重要

- ▶ 水を使用しないでください。損傷する原因となります。
- ▶ シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。損傷する原因となります。

4.1.3 液晶ディスプレイ

つめや指輪などで傷を付けないように注意しながら、乾いた柔らかい布かメガネ拭きを使って軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。

重要

- ▶ 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- ▶ 液晶ディスプレイの背面を手で支えてください。パソコン本体が倒れるおそれがあります。
- ▶ 化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、画面表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは使わないでください。
 - ・アルカリ性成分を含んだもの
 - ・界面活性剤を含んだもの
 - ・アルコール成分を含んだもの
 - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
 - ・研磨剤を含むもの

5

第5章 仕様

本製品の仕様を記載しています。

5.1	本体仕様	102
5.2	CPU	116
5.3	ディスプレイ	117
5.4	無線LAN	120

5.1 本体仕様

お使いのモデルの仕様一覧をご確認ください。

また、次の対応表でお使いの機種に搭載されているCPUと対応した列をご確認ください。

CPU名称	仕様一覧表の表記
インテル® Core™ i5-1145G7 プロセッサー	i5-1145G7
インテル® Core™ i5-1135G7 プロセッサー	i5-1135G7
インテル® Core™ i3-1125G4 プロセッサー	i3-1125G4
インテル® Celeron® プロセッサー 6305	6305

5.1.1 LIFEBOOK U7311/F

無線WANモデルの仕様については「■ 無線WANモデル」（→P.108）をご覧ください。

■ 標準モデル

LIFEBOOK U7311/F（標準モデル）					
対応CPU		i5-1145G7	i5-1135G7	i3-1125G4	6305
Secured-core PC		対応	—	—	—
CPU ^{注1}	動作周波数	最大4.40GHz ^{注2}		最大4.20GHz ^{注2}	最大3.70GHz ^{注2} 最大1.80GHz
	コア数/スレッド数	4/8			
	キャッシュメモリ（3次）	8MB			
チップセット		CPUと一体			
メインメモリ		標準8GB（オンボード） ^{注3} /最大40GB ^{注4} （LPDDR4x-3733）	標準4GB（オンボード） ^{注5} /最大40GB ^{注4} （LPDDR4x-3733）		
メモリスロット		×1（空きメモリスロット×1） ^{注6}			
表示機能					
グラフィックスアクセラレータ （CPUに内蔵）		Intel® Iris® Xe Graphics ^{注7}		Intel® UHD Graphics	
ビデオメモリ		メインメモリと共用			
液晶ディスプレイ ^{注8}					
タッチパネル搭載		LEDバックライト付タッチパネル式13.3型ワイドTFTカラー			—
タッチパネル非搭載		LEDバックライト付13.3型ワイドTFTカラー			
解像度/発色数 ^{注9}					
液晶ディスプレイ表示					
タッチパネル搭載		フルHD（1920×1080ドット/1677万色）			—
タッチパネル非搭載		HD（1366×768ドット/1677万色）/ フルHD（1920×1080ドット/1677万色）			
外部ディスプレイ表示 （本体）		アナログ：最大1920×1200ドット/最大1677万色 USB Type-C：最大3840×2160ドット/最大1677万色 HDMI：最大4096×2160ドット/最大1677万色			
外部ディスプレイ表示 （ポートリプリケータ）		アナログ：最大1920×1200ドット/最大1677万色 DVI-D：最大1920×1200ドット/最大1677万色 DisplayPort：最大3840×2160ドット/最大1677万色			
DirectX		12.1			
OpenGL		4.6			
フラッシュメモリディスク ドライブ ^{注10}		暗号化機能付フラッシュメモリディスク128GB （DRAM-less SSD PCIe NVMe） ^{注11}			

LIFEBOOK U7311/F（標準モデル）				
対応CPU	i5-1145G7	i5-1135G7	i3-1125G4	6305
オーディオ機能				
オーディオコントローラー	チップセット内蔵+High Definition Audio コーデック			
PCM録音再生機能	サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時） ^{注12} サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ（録音時） ^{注12} 同時録音再生機能			
MIDI再生機能	OS標準機能にてサポート			
スピーカー	ステレオスピーカー			
マイク				
タッチパネル搭載	デジタルステレオマイク			—
タッチパネル非搭載	デジタルステレオマイク ^{注13}			
Webカメラ				
タッチパネル搭載	有効画素数約92万画素			—
タッチパネル非搭載	有効画素数約92万画素 ^{注13}			
キーボード	アイソレーションキーボード (キーピッチ約19mm、キーストローク約1.7mm、86キー、JIS配列準拠)			
ポインティングデバイス ^{注14}	フラットポイント			
通信機能				
LAN	1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T 準拠 ^{注15} 、無線WAN対応 ^{注16}			
無線WAN	—			
無線LAN ^{注18}				
規格 ^{注19}	IEEE 802.11a 準拠、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠、IEEE 802.11n 準拠、 IEEE 802.11ac 準拠、IEEE 802.11ax 準拠（5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56） (Wi-Fi [®] 準拠 ^{注20}) (Wi-Fi CERTIFIED 6 [™] 準拠) (MU-MIMO対応)			
内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式 ^{注21}			
Bluetoothワイヤレス テクノロジー ^{注18} ^{注22}	Bluetooth v5.1 準拠			
インテル vPro [®] テクノロジー / AMT	○ / V15.0	○ / V15.0 ^{注19}	—	
セキュリティ機能				
指紋センサー ^{注23}	タッチ方式			
手のひら静脈センサー ^{注23}	あり			
スマートカード ^{注13}	× 1（専用スロット） ^{注24}			
セキュリティチップ（TPM）	TCG Ver 2.0 準拠			
盗難防止用ロック取り付け穴	あり			

LIFEBOOK U7311/F（標準モデル）					
対応CPU	i5-1145G7		i5-1135G7	i3-1125G4	6305
インターフェース					
本体					
SDメモリーカード ^{注25}		×1スロット			
外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1			
	HDMI ^{注26}	HDMI出力×1			
USB ^{注27注28}					
Type-A	USB 3.2 (Gen1)	×2（右側面×1、左側面×1（電源オフUSB充電機能対応））			
Type-C ^{注29}	Thunderbolt™ 4 ^{注30}	×2（左側面） （USB4（Gen3）、 DisplayPort Alternate Mode 対応 ^{注31} ）	—		
	USB 3.2 (Gen2) ^{注32}	—	×2（左側面） （DisplayPort Alternate Mode 対応 ^{注31} ）		
nanoSIMカード		—			
LAN		RJ-45×1			
オーディオ					
マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用 ^{注33}		φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1			
ポートリプリケータ		×1（専用コネクタ）	—		
状態表示		LED			
ポートリプリケータ ^{注34}					
外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1	—		
	DisplayPort	20ピン×2	—		
	DVI-D	24ピン×1	—		
USB ^{注27注28}					
Type-A	USB 3.2 (Gen1)	×4	—		
Type-C ^{注35}	USB 3.2 (Gen1) ^{注36}	×2	—		
LAN		RJ-45×1	—		
オーディオ					
ヘッドホン・ラインアウト兼用 ^{注33}		φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1 ヘッドホン出力設定時：出力1mW以上、 負荷インピーダンス32Ω ラインアウト設定時：出力1V以上、 負荷インピーダンス10kΩ以上	—		
マイク・ラインイン兼用 ^{注37}		φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1 マイク入力設定時：入力100mV以下、 入力インピーダンス （AC）1kΩ以上（DC）2kΩ以上 ラインイン設定時：入力1V以下、 入力インピーダンス10kΩ以上	—		

LIFEBOOK U7311/F（標準モデル）					
対応CPU		i5-1145G7	i5-1135G7	i3-1125G4	6305
電源供給方式	ACアダプタ ^{注38}	本体添付：入力AC100V～240V、出力DC19V（3.42A） ポートリプリケータ添付：入力AC100V～240V、出力DC19V（4.74A）			
	バッテリー	標準	—	内蔵バッテリーパック：リチウムイオン 30Wh	
		大容量	内蔵バッテリーパック：リチウムイオン 60Wh	内蔵バッテリーパック：リチウムイオン 60Wh ^{注13}	
バッテリー駆動時間 ^{注39注40} （JEITA測定法2.0 ^{注41} ）					
タッチパネル搭載					
バッテリー（標準）		—	約7.2時間	約6.9時間	
バッテリー（大容量）		約14.4時間	約14.4時間	約13.9時間	
タッチパネル非搭載					
バッテリー（標準）					
フルHD搭載時		—	約7.6時間	約7.4時間	
HD搭載時			約10.1時間	約10.0時間	
軽量フルHD搭載時			約12.9時間	—	
バッテリー（大容量）					
フルHD搭載時		約17.0時間	約15.2時間	約15.0時間	
HD搭載時		約20.2時間	約20.2時間	約20.0時間	
軽量フルHD搭載時		—	約26.0時間	—	
バッテリー充電時間 ^{注42}		約2.3時間	約2.2時間（標準）／約2.3時間（大容量）		
消費電力 ^{注43}	標準値（最大時）	約5.0W（約74W）			約4.2W（約74W）
	電源オフ時	約1.0W以下	約0.7W以下		約0.8W以下
外形寸法（突起部含まず）		W 311.4×D 216.8×H 19.2mm			
質量 ^{注44}					
タッチパネル搭載					
バッテリー（標準）		—	1.09kg	—	
バッテリー（大容量）		1.22kg			
タッチパネル非搭載					
バッテリー（標準）					
フルHD搭載時		—	1.04kg		
HD搭載時			1.10kg		
軽量フルHD搭載時			0.99kg ^{注45}		—
バッテリー（大容量）					
フルHD搭載時		1.17kg			
HD搭載時		1.23kg			
軽量フルHD搭載時		—	1.12kg ^{注45}		—
電波障害対策		VCCIクラスB			

LIFEBOOK U7311/F（標準モデル）				
対応CPU	i5-1145G7	i5-1135G7	i3-1125G4	6305
省エネ法に基づくエネルギー消費効率	富士通製品情報ページ（ https://jp.fujitsu.com/platform/pc/ ）にある、製品情報の仕様をご覧ください。			
国際エネルギースタープログラム ^{注46}	対応 ^{注47}			
温湿度条件	温度5～35℃／湿度20～80%RH（動作時） 温度-10～60℃／湿度20～80%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）			
プレインストールOS ^{注48}	Windows 10 Pro（64ビット版）			
サポート OS ^{注48注49}				
Secured-core PC対応	Windows 10 Pro（64ビット版） ^{注50}	—		
Secured-core PC非対応	Windows 10 Enterprise LTSC 2019（64ビット版）、 Windows 10 Enterprise（64ビット版）、 Windows 10 Pro（64ビット版）			

■ 無線WANモデル

LIFEBOOK U7311/F（無線WANモデル）					
対応CPU		i5-1145G7	i5-1135G7	i3-1125G4	6305
Secured-core PC		対応	—	—	—
CPU注1	動作周波数	最大4.40GHz注2		最大4.20GHz注2	最大3.70GHz注2
	コア数/スレッド数	4/8			2/2
	キャッシュメモリ（3次）	8MB			4MB
チップセット		CPUと一体			
メインメモリ		標準8GB（オンボード）注3/最大40GB注4 （LPDDR4x-3733）	標準4GB（オンボード）注5/最大40GB注4 （LPDDR4x-3733）		
メモリスロット		×1（空きメモリスロット×1）注6			
表示機能					
グラフィックスアクセラレータ （CPUに内蔵）		Intel® Iris® Xe Graphics注7		Intel® UHD Graphics	
ビデオメモリ		メインメモリと共用			
液晶ディスプレイ注8					
タッチパネル搭載		LEDバックライト付タッチパネル式13.3型ワイドTFTカラー			—
タッチパネル非搭載		LEDバックライト付13.3型ワイドTFTカラー			
解像度/発色数注9					
液晶ディスプレイ表示					
タッチパネル搭載		フルHD（1920×1080ドット/1677万色）			—
タッチパネル非搭載		HD（1366×768ドット/1677万色）/ フルHD（1920×1080ドット/1677万色）			
外部ディスプレイ表示 （本体）		アナログ：最大1920×1200ドット/最大1677万色 USB Type-C：最大3840×2160ドット/最大1677万色 HDMI：最大4096×2160ドット/最大1677万色			
外部ディスプレイ表示 （ポートリプリケータ）		アナログ：最大1920×1200ドット/最大1677万色 DVI-D：最大1920×1200ドット/最大1677万色 DisplayPort：最大3840×2160ドット/最大1677万色			
DirectX		12.1			
OpenGL		4.6			
フラッシュメモリディスク ドライブ注10		暗号化機能付フラッシュメモリディスク128GB （DRAM-less SSD PCIe NVMe）注11			
オーディオ機能					
オーディオコントローラー		チップセット内蔵+High Definition Audioコーデック			
PCM録音再生機能		サンプリング周波数：最大192kHz、24ビットステレオ（再生時）注12 サンプリング周波数：最大96kHz、16ビットステレオ（録音時）注12 同時録音再生機能			
MIDI再生機能		OS標準機能にてサポート			
スピーカー		ステレオスピーカー			
マイク					
タッチパネル搭載		デジタルステレオマイク			—
タッチパネル非搭載		デジタルステレオマイク注13			

LIFEBOOK U7311/F（無線WANモデル）				
対応CPU	i5-1145G7	i5-1135G7	i3-1125G4	6305
Webカメラ				
タッチパネル搭載	有効画素数約92万画素			—
タッチパネル非搭載	有効画素数約92万画素 ^{注13}			
キーボード	アイソレーションキーボード (キーピッチ約19mm、キーストローク約1.7mm、86キー、JIS配列準拠)			
ポインティングデバイス ^{注14}	フラットポイント			
通信機能				
LAN	1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T準拠 ^{注15} 、無線WAN対応 ^{注16}			
無線WAN	対応 (LTE) ^{注17}			
無線LAN				
規格 ^{注19}	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠、IEEE 802.11ax準拠 (5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56) (Wi-Fi [®] 準拠 ^{注20}) (Wi-Fi CERTIFIED 6 [™] 準拠) (MU-MIMO対応)			
内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式 ^{注21}			
Bluetoothワイヤレステクノロジー ^{注22}	Bluetooth v5.1 準拠			
インテル vPro [®] テクノロジー / AMT	○ / V15.0	○ / V15.0 ^{注19}	—	
セキュリティ機能				
指紋センサー ^{注23}	タッチ方式			
手のひら静脈センサー ^{注23}	あり			
スマートカード ^{注13}	× 1 (専用スロット) ^{注24}			
セキュリティチップ (TPM)	TCG Ver 2.0準拠			
盗難防止用ロック取り付け穴	あり			

LIFEBOOK U7311/F（無線WANモデル）					
対応CPU	i5-1145G7		i5-1135G7	i3-1125G4	6305
インターフェース					
本体					
SDメモリーカード ^{注25}		×1スロット			
外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1			
	HDMI ^{注26}	HDMI出力×1			
USB ^{注27注28}					
Type-A	USB 3.2 (Gen1)	×2（右側面×1、左側面×1（電源オフUSB充電機能対応））			
Type-C ^{注29}	Thunderbolt TM ₄ ^{注30}	×2（左側面） （USB4（Gen3）、 DisplayPort Alternate Mode対応 ^{注31} ）	—		
	USB 3.2 (Gen2) ^{注32}	—	×2（左側面） （DisplayPort Alternate Mode対応 ^{注31} ）		
nanoSIMカード		×1スロット			
LAN		RJ-45×1			
オーディオ					
マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用 ^{注33}		φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1			
ポートリプリケータ		×1（専用コネクタ）	—		
状態表示		LED			
ポートリプリケータ ^{注34}					
外部ディスプレイ	アナログ	アナログRGB ミニD-SUB15ピン×1	—		
	DisplayPort	20ピン×2	—		
	DVI-D	24ピン×1	—		
USB ^{注27注28}					
Type-A	USB 3.2 (Gen1)	×4	—		
Type-C ^{注35}	USB 3.2 (Gen1) ^{注36}	×2	—		
LAN		RJ-45×1	—		
オーディオ					
ヘッドホン・ラインアウト兼用 ^{注33}		φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1 ヘッドホン出力設定時：出力1mW以上、 負荷インピーダンス32Ω ラインアウト設定時：出力1V以上、 負荷インピーダンス10kΩ以上	—		
マイク・ラインイン兼用 ^{注37}		φ3.5mmステレオ・ミニジャック×1 マイク入力設定時：入力100mV以下、 入力インピーダンス （AC）1kΩ以上（DC）2kΩ以上 ラインイン設定時：入力1V以下、 入力インピーダンス10kΩ以上	—		

LIFEBOOK U7311/F（無線WANモデル）					
対応CPU		i5-1145G7	i5-1135G7	i3-1125G4	6305
電源供給方式	ACアダプタ ^{注38}	本体添付：入力AC100V～240V、出力DC19V（3.42A） ポートリプリケータ添付：入力AC100V～240V、出力DC19V（4.74A）			
	バッテリー	標準	—	内蔵バッテリーパック：リチウムイオン 30Wh	
		大容量	内蔵バッテリーパック：リチウムイオン 60Wh	内蔵バッテリーパック：リチウムイオン 60Wh ^{注13}	
バッテリー駆動時間 ^{注39注40} （JEITA測定法2.0 ^{注41} ）					
タッチパネル搭載					
バッテリー（標準）		—	約6.7時間	約6.5時間	
バッテリー（大容量）		約13.5時間	約13.5時間	約13.1時間	
タッチパネル非搭載					
バッテリー（標準）					
フルHD搭載時		—	約7.2時間	約6.9時間	
HD搭載時			約9.5時間	約9.4時間	
軽量フルHD搭載時			約12.0時間	—	
バッテリー（大容量）					
フルHD搭載時		約16.0時間	約14.5時間	約14.1時間	
HD搭載時		約19.0時間	約19.0時間	約18.8時間	
軽量フルHD搭載時		—	約24.0時間	—	
バッテリー充電時間 ^{注42}		約2.3時間	約2.2時間（標準）／約2.3時間（大容量）		
消費電力 ^{注43}	標準値（最大時）	約5.1W（約74W）			約4.6W（約74W）
	電源オフ時	約1.2W以下	約1.0W以下		約0.9W以下
外形寸法（突起部含まず）		W 311.4×D 216.8×H 19.2mm			
質量 ^{注44}					
タッチパネル搭載					
バッテリー（標準）		—	1.10kg	—	
バッテリー（大容量）		1.23kg			—
タッチパネル非搭載					
バッテリー（標準）					
フルHD搭載時		—	1.05kg		
HD搭載時			1.11kg		
軽量フルHD搭載時			1.00kg ^{注45}		—
バッテリー（大容量）					
フルHD搭載時		1.18kg			—
HD搭載時		1.24kg			—
軽量フルHD搭載時		—	1.13kg ^{注45}		—
電波障害対策		VCCIクラスB			

LIFEBOOK U7311/F（無線WANモデル）				
対応CPU	i5-1145G7	i5-1135G7	i3-1125G4	6305
省エネ法に基づくエネルギー消費効率	富士通製品情報ページ（ https://jp.fujitsu.com/platform/pc/ ）にある、製品情報の仕様をご覧ください。			
国際エネルギースタープログラム ^{注46}	対応 ^{注47}			
温湿度条件	温度5～35℃／湿度20～80％RH（動作時） 温度－10～60℃／湿度20～80％RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）			
プレインストールOS ^{注48}	Windows 10 Pro（64ビット版）			
サポートOS ^{注48注49}				
Secured-core PC対応	Windows 10 Pro（64ビット版） ^{注50}	—		
Secured-core PC非対応	Windows 10 Enterprise LTSC 2019（64ビット版）、 Windows 10 Enterprise（64ビット版）、 Windows 10 Pro（64ビット版）			

本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

- 注1：・アプリによっては、CPU名表記が異なる場合があります。
・本パソコンに搭載されているCPUで使用できる主な機能については、「5.2 CPU」（→P.116）をご覧ください。
- 注2：インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0（→P.116）動作時。
- 注3：カスタムメイドの選択によって、次の容量のメモリが搭載されています。
・40GB（オンボード8GB+32GB）
※暗号化機能付フラッシュメモリディスク128GB（DRAM-less SSD PCIe NVMe）を搭載している場合は選択できません。
・24GB（オンボード8GB+16GB）
※暗号化機能付フラッシュメモリディスク128GB（DRAM-less SSD PCIe NVMe）を搭載している場合は選択できません。
・16GB（オンボード8GB+8GB）
- 注4：メモリの増設時は、場合によりすでに搭載されているメモリを取り外す必要があります。
- 注5：カスタムメイドの選択によって、次の容量のメモリが搭載されています。
・40GB（オンボード8GB+32GB）
※暗号化機能付フラッシュメモリディスク128GB（DRAM-less SSD PCIe NVMe）を搭載している場合は選択できません。
・24GB（オンボード8GB+16GB）
※暗号化機能付フラッシュメモリディスク128GB（DRAM-less SSD PCIe NVMe）を搭載している場合は選択できません。
・16GB（オンボード8GB+8GB）
・8GB（オンボード8GB）
・8GB（オンボード4GB+4GB）
- 注6：カスタムメイドの選択によっては、空きメモリスロットがない場合もあります。
- 注7：メインメモリ1枚搭載時は、Intel® UHD Graphicsとなります。
- 注8：以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
・製造工程上やご利用環境によって空気中の微細な異物が混入する場合があります。
・本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくすると消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。省電力機能などを利用して、自動的にディスプレイの電源を切る設定は、「電源オプション」ウィンドウ左の「ディスプレイの電源を切る時間の指定」から行えます。
・表示する条件によってはムラおよび微小なほん点が目立つことがあります。
- 注9：・グラフィックスアクセラレータが出力する最大発色数は1677万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。
・外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。
- 注10：容量は、1GB=1000³バイト換算値です。
- 注11：カスタムメイドの選択によって、次のドライブが搭載されています。
・暗号化機能付フラッシュメモリディスク256GB（DRAM-less SSD PCIe NVMe）
・暗号化機能付フラッシュメモリディスク512GB（DRAM-less SSD PCIe NVMe）
・暗号化機能付フラッシュメモリディスク256GB（SSD PCIe NVMe）
・暗号化機能付フラッシュメモリディスク512GB（SSD PCIe NVMe）
- 注12：使用できるサンプリングレートは、アプリによって異なります。
- 注13：カスタムメイドの選択によって搭載されています。
- 注14：カスタムメイドの選択によっては、USBマウス（光学式/レーザー式）が添付されています。
- 注15：・1000Mbpsは1000BASE-Tの理論上の最高速度であり、実際の通信速度はお使いの機器やネットワーク環境により変化します。
・1000Mbpsの通信を行うためには、1000BASE-Tに対応したハブが必要となります。また、LANケーブルには、1000BASE-Tに対応したエンハンストカテゴリ5（カテゴリ5E）以上のLANケーブルを使用してください。
- 注16：・1000Mbpsのネットワーク速度しかサポートしていないハブでは、無線WAN機能は使用できません。
・無線WAN機能を使用する場合は、次の両方でリンク速度とデュプレックス共に自動検出可能な設定（オートネゴシエーション）にしてください。
- 本パソコンの有線LANインターフェース
- 本パソコンの有線LANインターフェースと接続するハブのポート
この両方が自動検出可能な設定になっていない場合、本パソコンが省電力状態や電源オフ状態のときにハブやポートをつなぎ変えたり、ポートの設定を変えたりすると無線WAN機能が動作しない場合があります。
・無線WAN機能を有効に設定している場合、消費電力が増加するためバッテリーの駆動時間が短くなります。無線WAN機能を使用する場合は、ACアダプタを接続することをお勧めします。
・電源オフ状態からの無線WAN機能を使用するには、『製品ガイド（共通編）』の「2章 BIOS」—「Wakeup on LANを有効にする」をご覧ください。
- 注17：・NTTドコモの通信サービスをご利用の場合
SIMカードスロットにXiに対応したSIMカード^{(*)1}を装着するだけで、受信時最大225Mbps/送信時最大50Mbps^{(*)2}の超高速通信が可能です（Xiエリアの一部に限ります）。
Xiエリア外であってもFOMAのエリアであれば受信時最大14Mbps/送信時最大5.7Mbps^{(*)2}の高速通信が可能です。^{(*)3}
*1：ドコモnanoUIMカードが利用可能です。
*2：対応エリアの詳細は、ドコモのホームページでご確認ください。通信速度は、送受信時の技術規格上の最大値であり、実際の通信速度を示すものではありません。ベストエフォート方式による提供となり、実際の通信速度は、通信環境やネットワークの混雑状況に応じて変化します。
エリアの詳細についてはNTTドコモのホームページ（<https://www.nttdocomo.co.jp/area/index.html>）をご覧ください。
*3：無線WANをご利用になるには、当社が提供する企業向けネットワークサービス「FENICS IIユニバーサルコネク」の契約またはNTTドコモとの回線契約およびXiに対応したプロバイダーとの契約が必要です。

- KDDI(au)の通信サービスをご利用の場合
SIMカードスロットに4G LTEに対応したSIMカード^{(*)1}を装着するだけで、4G LTE^{(*)2}、WiMAX 2+の高速通信をご利用いただけます。^{(*)3}
*1: 「au Nano IC Card 04 LE」のご利用となります。
*2: 一部エリアを除く。
*3: 4G LTEエリア内であっても電波状況によりご利用いただけない場合があります。
エリアについての詳細情報は、<https://www.au.com/mobile/area/>をご覧ください。「4G LTE」「WiMAX2+」は回線の混雑状況などに
じ、より混雑が少ないと判断したネットワークに接続します。
 - SoftBankの通信サービスをご利用の場合
SIMカードスロットにソフトバンクのSIMカード^{(*)1}を装着するだけで、「SoftBank 4G LTE」「SoftBank 4G」の超高速通信が可能です。
また、「SoftBank 4G LTE」「SoftBank 4G」エリア外でも「3Gハイスピード」の通信でご利用が可能です。^{(*)2)(*)3)(*)4}
*1: ソフトバンク所定のUSIMカード「USIMカード (F)」でご利用が可能です。「USIMカード (F)」からnanoサイズで取り外し装着して
ください。
*2: SoftBank 4G LTE、SoftBank 4Gは、第3.5世代移動通信システム以上の技術に対しても4Gの呼称を認めるという国際電気通信連合 (ITU)
の声明に基づきサービス名称として使用しています。
*3: 対応エリアの詳細はソフトバンクのホームページ (<https://www.softbank.jp/biz/mobile/network/>) でご確認ください。
*4: 無線WANをご利用になるには、ソフトバンクとの通信回線契約が必要です。
- 注 18: Secured-core PC対応モデルの場合は標準搭載、それ以外はカスタムメイドの選択によって搭載されます。
- 注 19: Thunderbolt™ 4搭載機種の場合は、カスタムメイドで「802.11ax無線LAN インテル vPro®テクノロジー対応)&Bluetooth」を選択すると、本
パソコンはインテル vPro®テクノロジー/AMT 15.0対応となります。
- 注 20: Wi-Fi® 準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示しています。
- 注 21: IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠またはIEEE 802.11ax準拠を使用したときは、MIMO方式にもなります。
- 注 22: すべてのBluetoothワイヤレステクノロジー対応周辺機器の動作を保証するものではありません。
- 注 23: カスタムメイドにより、「指紋センサー」か「手のひら静脈センサー」のいずれかを選択できます。
- 注 24: BIOSパスワードをスマートカード認証に置き換えることはできません。
- 注 25: • すべてのSDメモリーカードの動作を保証するものではありません。
• 著作権保護機能には対応していません。
• マルチメディアカード (MMC)、およびセキュアマルチメディアカードには対応していません。
• miniSDカード、microSDカード/microSDHCカード/microSDXCカードをお使いの場合は、アダプターが必要になります。
• ご使用可能なSDメモリーカードは最大2GB、SDHCメモリーカードは最大32GB、microSDXCカードは最大128GB、SDXCメモリーカードは最
大512GBまでとなります。
• SDIOカードには対応していません。
- 注 26: • HDMI端子のあるすべてのディスプレイへの表示を保証するものではありません。
• 市販のテレビとの連動機能はありません。
- 注 27: • すべての対応機器の動作を保証するものではありません。
• 長いUSBケーブルを使用してUSBデバイスを接続した場合、USBデバイスが正常に動作しないことがあります。
この場合は、USB準拠の短いケーブルをお試しください。
- 注 28: 外部から電源が供給されないUSB対応周辺機器を接続するときの消費電流の最大容量は次のとおりです。
詳しくは、USB対応周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- Thunderbolt™ 4は、1ポートにつき3.0A
 - USB 3.2 (Gen2) Type-Cは、1ポートにつき3.0A
 - USB 3.2 (Gen1) Type-Cは、1ポートにつき3.0A
 - USB 3.2 (Gen1) Type-Aは、1ポートにつき900mA
- ただし、電源オフUSB充電機能対応のUSBコネクタは、1ポートにつき1.5A
- 注 29: • 接続したUSB対応機器の転送速度 (理論値) は次のとおりです。
- Thunderbolt™ 4対応機器: 最大40Gbps
- USB 3.2 (Gen2) 対応機器: 最大10Gbps
- USB 3.2 (Gen1) 対応機器: 最大5Gbps
- USB 2.0対応機器: 最大480Mbps
- USB Power Deliveryに対応しています。
 - 映像出力に対応しています。
- 注 30: • USB Power Delivery 対応機器へ給電 (最大5V/3.0A) できます。
• USB Power Delivery対応で7.5W (5V/1.5A) 以上を供給可能な機器であれば、パソコン本体に充電できます。
パソコンを使用しながら充電する場合は、USB Power Delivery対応で60W (20V/3A) 以上を供給可能な機器が必要となります。
また、次のような場合は、パソコンを充電していてもパソコンのバッテリーが減ることがあります。
- パソコンが動作している (高負荷処理を行っているなど)
- 接続機器への給電電力が大きい (消費電力の大きな機器を複数接続しているなど)
- すべての対応機器の動作を保証するものではありません。
- 注 31: すべてのDisplayPortの動作を保証するものではありません。
- 注 32: • USB Power Delivery 対応機器へ給電 (最大5V/1.5A) できます。
• USB Power Delivery対応で7.5W (5V/1.5A) 以上を供給可能な機器であれば、パソコン本体に充電できます。
パソコンを使用しながら充電する場合は、USB Power Delivery対応で45W (20V/2.25A) 以上を供給可能な機器が必要となります。
また、次のような場合は、パソコンを充電していてもパソコンのバッテリーが減ることがあります。
- パソコンが動作している (高負荷処理を行っているなど)
- 接続機器への給電電力が大きい (消費電力の大きな機器を複数接続しているなど)
- すべての対応機器の動作を保証するものではありません。
- 注 33: • ご購入時はヘッドホンまたはヘッドセットに設定されています。
ラインアウトに設定するには「2.6.4 オーディオ端子の機能を切り替える」(→P.38) をご覧ください。
- 注 34: カスタムメイドの選択によって添付されています。
- 注 35: 本コネクタはUSB Power Deliveryおよび映像出力には対応していません。

- 注36：ポートリプリケータのUSB 3.2（Gen1）Type-Cコネクタの供給電流は、2ポート合計で3.9Aまで供給可能です。
1つのポートに1.9A以上電流を供給している場合は、もう1つのポートは0.9Aまでしか電流の供給ができません。
- 注37：ご購入時はマイク入力に設定されています。ラインインに設定するには「2.6.4 オーディオ端子の機能を切り替える」（→P.38）をご覧ください。
- 注38：矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用DC/AC電源など）に接続されると故障する場合があります。
- 注39：バッテリー駆動時間は、ご利用状況やカスタムメイド構成によっては記載時間と異なる場合があります。
- 注40：BIOSセットアップの「詳細」メニュー→「各種設定」→「ハードウェア省電力機能」を「使用する」に設定した場合のバッテリー駆動時間です。
- 注41：一般社団法人電子情報技術産業協会の「JEITAバッテリー動作時間測定法（Ver.2.0）」（https://home.jeita.or.jp/pc_tablet/guideline/battery.html）に基づいて測定。
- 注42：
 - 電源オフ時および省電力状態時。装置の動作状況により充電時間が長くなる場合があります。
 - バッテリーユーティリティで「80%充電モード」に設定した場合の充電時間は異なります。
- 注43：
 - 当社測定基準によります（標準搭載メモリ、標準フラッシュメモリディスク容量、無線LANなし、LCD輝度最小）。
 - 電源オフ時の消費電力を0にするには、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- 注44：平均値のため、お使いのパソコンで質量が異なる場合があります。
- 注45：Thunderbolt™ 4搭載機種は選択できません。
- 注46：「国際エネルギースタープログラム」は、長時間電源を入れた状態になりがちなオフィス機器の消費電力を削減するための制度です。
- 注47：当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



- 注48：日本語版。
- 注49：
 - 富士通は、本製品で「サポートOS」を動作させるために必要なBIOSおよびドライバーを提供しますが、すべての機能を保証するものではありません。
 - サポートOSに関する最新の情報については、富士通製品情報ページ内にある「OS関連情報」（<https://www.fmworld.net/biz/fmw/support/os/>）をご覧ください。
 - Windowsを新規にインストールする場合は、『製品ガイド（共通編）』の「付録2 Windowsの新規インストールについて」をご覧ください。
- 注50：サポートOS以外（ボリュームライセンスなど）をインストールした場合は、Secured-core PCの機能は使用できません。

5.2 CPU

本パソコンに搭載されているCPUで使用できる主な機能は、次のとおりです。

お使いのパソコン本体に搭載されているCPUの欄をご覧ください。

機能	インテル® Core™ i5-1145G7 プロセッサ	インテル® Core™ i5-1135G7 プロセッサ	インテル® Core™ i3-1125G4 プロセッサ	インテル® Celeron® プロセッサ 6305
インテル® ターボ・ブースト・ テクノロジー 2.0	○	○	○	×
インテル® ハイパースレッディング・ テクノロジー	○	○	○	×
インテル® バーチャライゼーション・ テクノロジー	○	○	○	○

■ インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0

インテル® ターボ・ブースト・テクノロジー 2.0は、従来のマルチコアの使用状況にあわせてCPUが処理能力を自動的に向上させる機能に加え、高負荷時にパフォーマンスを引き上げるように最適化された機能です。

POINT

- ▶ OSおよびアプリの動作状況や設置環境などにより処理能力は変わります。性能向上量は保証できません。

■ インテル® ハイパースレッディング・テクノロジー

インテル® ハイパースレッディング・テクノロジーは、OS上で物理的な1つのCPUコアを仮想的に2つのCPUのように見せることにより、1つのCPUコア内でプログラムの処理を同時に実行し、CPUの処理性能を向上させる機能です。複数のアプリを同時に使っている場合でも、処理をスムーズに行うことが可能です。

この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

POINT

- ▶ OSおよびアプリの動作状況や設置環境などにより処理能力は変わります。性能向上量は保証できません。

■ インテル® バーチャライゼーション・テクノロジー

インテル® バーチャライゼーション・テクノロジーは、本機能をサポートするVMM（仮想マシンモニター）をインストールすることによって、仮想マシンの性能と安全性を向上させるための機能です。

この機能はご購入時には有効に設定されています。設定はBIOSセットアップで変更できます。『BIOSセットアップメニュー一覧』の「詳細」メニューをご覧ください。

5.3 ディスプレイ

5.3.1 シングル表示／拡張デスクトップ表示の解像度

パソコン本体の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイでの「シングル表示」、複数のディスプレイを使った「拡張デスクトップ表示」にしたときに、本製品が出力可能な解像度です。「拡張デスクトップ表示」にする場合は各ディスプレイごとに解像度を設定できます。

POINT

- ▶ お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。発色数は「32ビット」（約1677万色）です。
- ▶ お使いのOSやディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

■ パソコン本体の液晶ディスプレイ

お使いのパソコン本体の液晶ディスプレイ欄をご覧ください。

解像度	フルHD (1920×1080)	HD (1366×768)
1024×768	○	○
1280×720	○	○
1280×800	○	—
1280×1024	○	—
1360×768	○	○
1366×768	○	○
1440×900	○	—
1600×900	○	—
1680×1050	○	—
1920×1080	○	—

■ 外部ディスプレイ※

※ アナログ接続／DVI接続／USB Type-C接続／HDMI接続

解像度	リフレッシュレート (Hz)	対応
1024×768	60	○
	70 ^{注1}	
	75 ^{注1}	
	85 ^{注1}	
1280×720	60	○
1280×800	60	○
1280×1024	60	○
	75 ^{注1}	
	85 ^{注1}	
1360×768	60	○
1366×768	60	○
1440×900	60	○
1600×900	60	○
1600×1200	60	○
1680×1050	60	○
1920×1080	60	○
1920×1200 ^{注2}	60	○
1920×1440 ^{注3注4}	60	○
2560×1440 ^{注3注4}	60	○
2560×1600 ^{注3注4}	60	○
3840×2160 ^{注3注4}	60	○
4096×2160 ^{注4}	60	○

注1：アナログディスプレイコネクタを使用する場合に表示可能。

注2：DVI接続の場合、最大サポート解像度は1920×1200ドット、60Hz（CVT RB：Coordinated Video Timings Reduced Blanking）です。

お使いのディスプレイが1920×1200ドット表示をCVT RBで対応していれば選択できますが、CVT RBではなく、Standard Timingsで対応している場合には選択できず、1920×1080、1680×1050などの解像度が選択可能な解像度になります。お使いのディスプレイの仕様については、ディスプレイメーカーに確認してください。

注3：USB Type-Cコネクタを使用する場合に表示可能。

注4：HDMI出力端子を使用する場合に表示可能。

5.3.2 クローン表示の解像度

「クローン表示」にする場合に設定可能な解像度は、お使いの外部ディスプレイが対応している解像度により異なります。

パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイが対応しているそれぞれの最大解像度のうち、小さい方の解像度が「クローン表示」で設定できる最大解像度になります。

POINT

- ▶ お使いのディスプレイのマニュアルをご覧になり、表示可能な解像度を確認してください。発色数は「32ビット」（約1677万色）です。
- ▶ お使いのOSやディスプレイにより、表に記載のない解像度も選択可能な場合があります。

■ パソコン本体の液晶ディスプレイ+外部ディスプレイ※

※ アナログ接続／DVI接続／USB Type-C接続／HDMI接続

お使いのパソコン本体の液晶ディスプレイ欄をご覧ください。

解像度	フルHD (1920×1080)	HD (1366×768)
1024×768	○	○
1280×720	○	○
1280×800	○	—
1280×1024	○	—
1360×768	○	○
1366×768	○	○
1440×900	○	—
1600×900	○	—
1680×1050	○	—
1920×1080	○	—

5.4 無線LAN

対象 無線LAN搭載機種

本パソコンに搭載されている無線LANの仕様は次のとおりです。

■ Intel(R) Wi-Fi 6 AX201 160MHz

項目	仕様	
無線LAN規格	IEEE 802.11a準拠、IEEE 802.11b準拠、IEEE 802.11g準拠、IEEE 802.11n準拠、IEEE 802.11ac準拠、IEEE 802.11ax準拠 (5GHz帯チャンネル：W52/W53/W56) (Wi-Fi®準拠 ^{注1} 、Wi-Fi CERTIFIED 6™ 準拠)	
転送レート	IEEE 802.11b準拠	11～1Mbps（自動切り替え）
	IEEE 802.11a準拠 IEEE 802.11g準拠	54～6Mbps（自動切り替え）
	IEEE 802.11n準拠	300～6Mbps（自動切り替え、HT20/40対応） ^{注2}
	IEEE 802.11ac準拠	1733～6Mbps（自動切り替え、VHT20/40/80/160対応） ^{注3}
	IEEE 802.11ax準拠	574～6Mbps（2.4GHz帯）（自動切り替え、HE20/40対応） 2402～6Mbps（5GHz帯）（自動切り替え、HE20/40/80/160対応） ^{注4}
セキュリティ ^{注5}	SSID（ネットワーク名） WEP（セキュリティキー（WEPキー）：64／128ビット） ^{注6} WPA-パーソナル（WPA-PSK）（TKIP/AES） WPA2-パーソナル（WPA2-PSK）（TKIP/AES） WPA-エンタープライズ（WPA）（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）（TKIP/AES） WPA2-エンタープライズ（WPA2）（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）（TKIP/AES） WPA3-パーソナル（WPA3-SAE）（AES） IEEE 802.1X（EAP-TLS/PEAP(MSCHAPv2)）	
使用周波数範囲	2,400MHz～2,483.5MHz 5,150MHz～5,340MHz 5,460MHz～5,760MHz	
チャンネル数 ^{注7}	IEEE 802.11b準拠 IEEE 802.11g準拠	1～13ch
	IEEE 802.11a準拠	W52（36/40/44/48ch）／W53（52/56/60/64ch）／ W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140/144ch）
	IEEE 802.11n準拠 IEEE 802.11ax準拠	・ 2.4GHzモード 1～13ch ・ 5GHzモード W52（36/40/44/48ch）／W53（52/56/60/64ch）／ W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140/144ch）
	IEEE 802.11ac準拠	W52（36/40/44/48ch）／W53（52/56/60/64ch）／ W56（100/104/108/112/116/120/124/128/132/136/140/144ch）

- 注1 : Wi-Fi®準拠とは、無線LANの相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。
- 注2 : - IEEE 802.11nではHT20/40に対応しています。HT40を利用するには、無線LANアクセスポイントもHT40に対応している必要があります。
- IEEE 802.11nを使用する際の無線LANアクセスポイントの設定で、HT40の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちにHT40の機能を無効にしてください。
- 注3 : - IEEE 802.11acではVHT20/40/80/160に対応しています。VHT80/160を利用するには、無線LANアクセスポイントもVHT80/160に対応している必要があります。
- IEEE 802.11acを使用するときの無線LANアクセスポイントの設定で、VHT40/80/160の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちにVHT40/80/160の機能を無効にしてください。
- 注4 : - IEEE 802.11axではHE20/40/80/160に対応しています。HE160を利用するには、無線LANアクセスポイントもHE160に対応している必要があります。
- IEEE 802.11axを使用するときの無線LANアクセスポイントの設定で、HE40/80/160の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちにHE40/80/160の機能を無効にしてください。
- 注5 : IEEE 802.11n、IEEE 802.11ac、IEEE 802.11axで接続するためには、パスメーズ (PSK) をAESに設定する必要があります。
- 注6 : WEPによる暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長24ビットを引いた40ビット/104ビットです。
- 注7 : このパソコンに搭載されている無線LANのIEEE 802.11bでは、無線チャンネルとしてチャンネル1～13を使用しています。無線LANアクセスポイントのチャンネルを、1～13の間で設定してください。設定方法については、無線LANアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

□ 5GHz帯のチャンネルについて

IEEE 802.11a/b/g/n/ac/ax準拠の無線LANを搭載した機種では、5GHzの周波数帯において、次のチャンネルを使用できます。

- W52 : 36 (5,180MHz) /40 (5,200MHz) /44 (5,220MHz) /48 (5,240MHz)
- W53 : 52 (5,260MHz) /56 (5,280MHz) /60 (5,300MHz) /64 (5,320MHz)
- W56 : 100 (5,500MHz) /104 (5,520MHz) /108 (5,540MHz) /112 (5,560MHz) /116 (5,580MHz) /120 (5,600MHz) /124 (5,620MHz) /128 (5,640MHz) /132 (5,660MHz) /136 (5,680MHz) /140 (5,700MHz) /144 (5,720MHz)

5GHz帯を使用する場合は、上記チャンネルを利用できる無線LAN製品とのみ通信が可能です。

LIFEBOOK
U7311/F

製品ガイド（機種別編）
B6FK-5571-02 Z0-04

発行日 2021年10月
発行責任 富士通株式会社

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。